

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	観光資源整備事業				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	都市型観光プラン推進事業
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	観光係

1 基本情報

長期基本計画	P48	政策の柱	まちの魅力を活かした都市型観光の推進
		基本的な考え方	品川ならではの観光コンテンツを充実する
総合実施計画	P47	実施計画事業	水辺を活用したにぎわい創出
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成16年度～	関連する個別計画等	品川区都市型観光プラン
根拠法令要綱			

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】 ◆区内の多彩で魅力ある観光資源を活用した「都市型観光」の展開により、来街者の増加とにぎわい創出を図る。
【概要】 ◆観光関連団体との連携、支援により”オールしながわ”での観光振興・観光まちづくりを推進していく。 ◆しながわ観光の魅力である名所旧跡や水辺、公園、アクセスの良さなど多様なコンテンツを関係団体や自治体との連携イベント、PRキャラクターの活用等により付加価値を高めていく。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
しながわ水辺の観光フェスタ来場者数	人	目標	700	1,500	39,000	39,000	39,000	しながわ水辺の観光フェスタの各イベントの合計来場者数
		実績	791	1,772	40,160		令和10年度	
しながわ観光フェア来場者数	人	目標	400	1,000	3,000	6,200	7,000	西小山駅前で開催する区主催「にしこやまつり」の来場者数
		実績	400	1,000	6,000		令和10年度	
目黒川イルミネーション来場者数	人	目標	580,000	590,000	590,000	600,000	620,000	実行委員会と協力して運営する目黒川イルミネーションの来場者数
		実績		610,000	600,000		令和10年度	
ハタチの龍馬動画視聴総数(累計)	件	目標	100,000	200,000	300,000	800,000	1,050,000	ハタチの龍馬のアニメ・自治体コラボ動画の視聴総数(累計)
		実績	120,000	209,000	756,000		令和10年度	

**取組内容・実績**  
 ◆地域の観光関連事業者や団体で組織される「品川区観光振興協議会」を開催し、水辺の活性化や情報発信等の観光テーマ別の課題討議、情報交換を行った。  
 ◆実行委員会との共催「しながわ水辺の観光フェスタ」では、10月に水辺各地区(東品川、天王洲、勝馬、五反田、品川宿、八潮)でイベントを実施、その他「しながわ観光フェア」等のイベント実施により、区内への誘客、水辺の活性化、魅力のPRを図った。  
 ◆「目黒川イルミネーション」では、地域の廃油を資源としたバイオディーゼル燃料による100%自家発電のLEDの点灯により、観光面に加えて環境にやさしいイベントとして、魅力を発信した。  
 ◆「ハタチの龍馬」は、着ぐるみによるイベントや出前授業の参加に加えて、TwitterやYouTubeにより区内外に広く品川区の魅力発信を行った。

**指標の達成状況**  
 ◆「しながわ水辺の観光フェスタ」は、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント規模縮小等を受け、令和3年度まで来場者が多くなかったが、令和4年度は感染状況が落ち着き、外出機運が高まったことにより、各地区イベントの来場者数が増え、目標値を超えた。  
 ◆「しながわ観光フェア」についても、上記同様に感染状況が落ち着いた令和4年度は従前の来場者数規模に戻る結果となった。  
 ◆「目黒川イルミネーション」は、冬の風物詩として、区内外の認知度が高く、目標値を達成している。  
 ◆「ハタチの龍馬」は、より区内外に区の魅力を伝えるため、わかりやすい内容の動画制作の上、Twitterで発信することにより令和4年度は目標値を大幅に超えることが出来た。

必要性・有効性

◆新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いた令和4年度はどのイベントも大きな賑わいを見せ、需要が多いことが分かった。イベントによる効果について、例えば、来場者数は天候に左右されることもあり数値で示しづらいが、区民を含む来場者の幸福度を向上させるものと考えている。  
 ◆「目黒川イルミネーション」は、冬の桜としてマスメディア(テレビ、新聞など)で多く取り上げられ、広告換算額は約5億9,800万円(令和4年度)となり、非常に効果が高い。  
 ◆「ハタチの龍馬」は、地域イベントへの着ぐるみの参加やイラストを表示したしながわ水族館の水槽等の地域に密着した活動と、Twitterのフォロワー数が約3.3万人の一定の影響のあるキャラクターのため、必要性が高い。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	0	0	0	0	0.00%
役務費	0	0	0	0	0.00%
委託料	107,217	106,562	0	655	99.39%
使用料及び賃借料	30	13	0	17	43.93%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	74,513	53,415	0	21,098	71.69%
その他	1,000	804	0	196	80.38%
計	182,760	160,794	0	21,966	87.98%

決算額の主な内訳

◆委託料 106,562千円(イルミネーション設置事業委託、しながわ観光フェア事業委託、観光振興協議会等運営事業委託他)  
 ◆負担金補助及び交付金 53,415千円(しながわ水辺の観光フェスタ分担当金、チャンネルアートモーメント事業補助金他)

効率性

◆地域団体と共催しているイベント事業については、引き続き、地元からの協賛を得て、費用の縮小につなげていく。  
 ◆補助金については、民間活力を最大限引き出せるようブラッシュアップを図る。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	13,507	13,212	-295
物件費	98,975	106,779	7,804
うち委託料	98,584	106,562	7,978
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	28,448	53,415	24,967
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	3,136	1,209	-1,927
その他	0	0	0
小計 D	144,066	174,615	30,549
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-144,066	-174,615	-30,549
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-144,066	-174,615	-30,549
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-144,066	-174,615	-30,549
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度:11.6% 令和4年度:8.3% ◆事業の大部分を委託により実施しているため、行政費用における物件費(委託料)の割合が高くなっている。 ◆令和4年度に地域イベントに対する補助金を新設したため、補助費等が大きく増加している。		

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	0	0	0
流動負債 R	728	761	33
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	728	761	33
その他	0	0	0
固定負債 S	8,887	7,699	-1,188
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	8,887	7,699	-1,188
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	9,615	8,460	-1,155
正味財産の部	-9,615	-8,460	1,155
正味財産の部合計 U	-9,615	-8,460	1,155
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0
特微的事項	◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。		

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果】  
 ◆A 拡大する事業  
 【説明】  
 ◆水辺に係る事業は、区の基本方針等である品川区の大きな魅力の一つである水辺空間を活用した取組みのため、適宜改善を図りながら積極的に推進していく。  
 ◆その他の事業は、アンケート結果等を踏まえた事業方法や規模等のブラッシュアップを図り支出の抑制に努め、引き続き実施する。

(2) 最終評価

【評価結果】  
 ◆A 拡大する事業  
 【説明】  
 ◆水辺のブランディングに向け、効果的な観光施策を取捨選択したうえで、体系立った打ち出し方を検討する。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	観光情報発信事業				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	都市型観光プラン推進事業
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	観光係

1 基本情報

長期基本計画	P48	政策の柱	まちの魅力を活かした都市型観光の推進
		基本的な考え方	観光情報の集約と多様な情報発信をする
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成16年度 ~	関連する個別計画等	品川区都市型観光プラン
根拠法令要綱			

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆来訪意欲が湧き、更新頻度が高く鮮度の良い情報を発信し、来訪者の増加を図る。
◆区のイベント、スポット、商店等の多岐にわたる観光情報を様々な媒体を活用して幅広くPRする。
【概要】
◆観光に係る各種情報を取材し、サイトやSNS等の情報媒体で発信する。
◆鉄道事業者と連携した観光PRや情報取得の主流となっているYouTubeに配信する動画の制作、広告の運用を行う。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
しながわ観光協会サイト 閲覧数(年間)	件	目標	1,900,000	2,000,000	2,100,000	2,200,000	2,700,000	しながわ観光協会サイトの閲覧数 (年間)
		実績	1,109,665	1,512,728	2,413,980		令和10年度	
YouTube動画の視聴 総回数(累計)	回	目標			120,000	190,000	440,000	YouTubeを活用した情報発信 事業で制作した動画の視聴総回数 (累計)
		実績			148,185		令和10年度	
		目標						
		実績						

取組内容・実績
◆しながわ観光協会のサイトで観光スポットやイベント等の情報を掲載した。
◆乗降客数が多い都内駅へのパンフレットの配架、鉄道車両内や駅柱への観光PR広告の掲出により、鉄道利用者へ品川区の魅力発信を行った。
◆オンラインでの情報発信として、観光PR動画12本をYouTubeに投稿し、区内外に広く品川区の魅力発信を行った。

指標の達成状況
◆しながわ観光協会サイト閲覧数について、令和4年度は新型コロナウイルス感染症が落ち着き、外出行動の急増に伴うインターネットでの検索が増え、目標値を大幅に上回った。
◆YouTube動画の視聴総回数について、観光関係団体の意見や注目度の高いスポット・コンテンツ等を活用した動画内容を製作の上、しながわ観光協会のTwitterにより広く周知し、目標値を達成した。

必要性・有効性
◆区への訪問を促すには、最新で魅力ある情報を継続的に発信する必要がある。
◆区内の鉄道網は充実しており、観光事業において、訪問手段である鉄道の車両や駅を活用した情報発信は有効な手段である。
◆区の観光情報をより広くPRするため、認知度の高いYouTubeの活用は有効である。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	250	79	0	171	31.68%
役員費	100	18	0	82	18.07%
委託料	16,652	16,650	0	2	99.99%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.00%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	0	0	0	0	0.00%
計	17,002	16,748	0	254	98.50%

決算額の主な内訳
◆委託料 16,650千円(しながわ観光情報管理運営事業委託、鉄道会社を活用した情報発信事業委託他)

効率性
◆情報発信の対象や手法が類似しないよう、各事業の特徴を活かした差別化により、効率的に実施していく。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A	勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	4,302	4,204	-98	流動資産 0	0	0	0
物件費	12,959	16,748	3,789	収入未済	0	0	0
うち委託料	12,673	16,650	3,977	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	0	0	0	その他	0	0	0
扶助費	0	0	0	固定資産 P	0	0	0
補助費等	0	0	0	土地	0	0	0
減価償却費	0	0	0	建物	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	1,045	403	-642	重要物品	0	0	0
その他	0	0	0	インフラ資産	0	0	0
小計 D	18,306	21,355	3,049	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	243	254	11
都支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	賞与引当金	243	254	11
その他	0	0	0	その他	0	0	0
小計 E	0	0	0	固定負債 S	2,962	2,566	-396
行政収支差額 H=E-D	-18,306	-21,355	-3,049	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	2,962	2,566	-396
通常収支差額 J=H+I	-18,306	-21,355	-3,049	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0	負債の部合計 T=R+S	3,205	2,820	-385
特別収入 小計 L	0	0	0	正味財産の部	-3,205	-2,820	385
特別収支差額 M=L-K	0	0	0	正味財産の部 合計 U	-3,205	-2,820	385
当期収支差額 N=J+M	-18,306	-21,355	-3,049	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度:29.2% 令和4年度:21.6%			◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。			
	◆事業の大部分を委託により実施しているため、行政費用における物件費(委託料)の割合が高くなっている。						

6 評価

(1) 所管評価
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆品川区の魅力である水辺空間や商店街等を活かした都市型観光の推進に重要な事業のため、新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえ、ブラッシュアップを図り実施する。
(2) 最終評価
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆YouTube動画の作成について、1本あたりの再生回数は決して多くなく、区への来訪者の増加など具体的な成果につながっているかは検証が困難である。他事業においても動画は作成していることから、作成本数の削減または廃止も視野に入れて事業を再考する。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	観光サービス充実事業				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	都市型観光プラン推進事業
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	観光係

1 基本情報

長期基本計画	P48	政策の柱	まちの魅力を活かした都市型観光の推進
		基本的な考え方	多様な協働・連携で品川の魅力をさらに向上する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成16年度～	関連する個別計画等	品川区都市型観光プラン
根拠法令要綱			

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】 ◆しながわ観光の魅力を快適に触れ、楽しんでもらうためのサービス整備、観光案内所を中心とした地域PR環境およびコンテンツの構築を図る。
【概要】 ◆パンフレットや観光大使による観光案内、観光案内所の整備や支援により、来訪者へのサービス環境を構築する。 ◆水辺周辺スポットの魅力を伝える舟運を実施する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
観光案内所来館者数	人	目標	45,000	46,000	47,000	51,000	56,000	各観光案内所(しながわPLAZA、info&cafeSQUARE、品川宿交流館、南品川桜河岸まちなか観光案内所)の合計来館者数
		実績	25,460	32,005	49,382		令和10年度	
観光パンフレット作成数	部	目標	150,000	150,000	150,000	150,000	200,000	観光パンフレットの新規作成数および増刷数の合計値
		実績	75,000	151,000	140,000		令和10年度	
しながわ観光大使のデザイン使用数	件	目標	30	35	40	45	70	チラシ等へのしながわ観光大使のデザイン使用数
		実績	30	38	53		令和10年度	
舟運事業の乗船者数	人	目標			600			2日間で実施したおもてなし舟運事業の乗船者数
		実績			1,620			

**取組内容・実績**  
 ◆観光案内所(しながわPLAZA、info&cafeSQUARE、品川宿交流館、南品川桜河岸まちなか観光案内所)を年間を通して、運営(運営補助含む)し、来街者に観光情報を案内した。  
 ◆観光パンフレットやマップの新規制作、増刷を行い、来街者への情報発信を図った。  
 ◆しながわ観光大使「シナモロール」を活用し、特設サイト・SNSでの情報発信、また地域イベント会場へのシナモロールの派遣により、賑わい作りと集客に寄与した。  
 ◆舟運事業では、大井ホッケー競技場で開催されたホッケー国際大会に合わせ、10月の2日間、目黒川と京浜運河をコースとするクルーズ船を運航し、水辺スポットの知名度向上と回遊につなげた。

指標の達成状況

◆観光案内所来館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和3年度まで減っていたが、令和4年度は感染状況が落ち着き、外出機運が高まったことにより、目標値を超えた。  
 ◆観光パンフレット作成数は、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により需要が落ち込んだが、令和3年度は近場への外出需要の高まりを受けて、目標値を達成出来た。  
 ◆しながわ観光大使「シナモロール」の高い知名度により、チラシ等へのデザイン使用件数は毎年上がっている。  
 ◆舟運事業は、外出機運が高まったことにより、目標値を超えた。

必要性・有効性

◆観光案内所の運営および観光パンフレット作成は、来館者数、作成数(配布数)と成果が数字として表れ、需要を把握できる事業であるため、需要が多い場合は必要と考える。なお、観光パンフレットは、インターネット上も閲覧可能だが、手に持って複数ページを手軽に確認可能な紙媒体の需要は高い。  
 ◆しながわ観光大使「シナモロール」のデザインをチラシ等に活用することにより、手に取ってもらえる可能性が高くなるため、有効性は高い。  
 ◆10月の2日間に実施した舟運事業は、乗船希望者が行列となり、過去の類似事業の実績を踏まえた目標値を大幅に超え、非常に需要がある。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	604	272	0	332	45.06%
役員費	0	0	0	0	0.00%
委託料	28,573	28,057	0	516	98.20%
使用料及び賃借料	4,180	4,180	0	0	100.00%
工事請負費	3,905	2,030	0	1,875	51.97%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	48,058	41,112	0	6,946	85.55%
その他	0	0	0	0	0.00%
計	85,320	75,651	0	9,669	88.67%

決算額の主な内訳

◆委託料 28,057千円(観光パンフレット等制作・増刷事業委託、しながわ観光大使PR事業委託他)  
 ◆負担金補助及び交付金 41,112千円(観光協会運営補助金、info&cafeSQUARE運営分担金、おもてなし舟運事業他)

効率性

◆構成する事業の多くは観光案内所への運営補助金や負担金であり、義務的な経費であるため、大幅な見直しは難しい。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	9,465	9,249	-216
物件費	30,309	32,486	2,177
うち委託料	26,129	28,057	1,928
維持補修費	66	51	-15
扶助費	0	0	0
補助費等	40,669	41,112	443
減価償却費	0	864	864
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	2,300	887	-1,413
その他	0	2,002	2,002
小計D	82,809	86,651	3,842
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	1,161	1,161
小計E	0	1,161	1,161
行政収支差額 H=E-D	-82,809	-85,490	-2,681
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-82,809	-85,490	-2,681
特別費用 小計K	0	0	0
特別収入 小計L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-82,809	-85,490	-2,681
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度:14.2% 令和4年度:11.7% ◆しながわ観光協会と観光案内所の運営を補助しているため、行政費用における物件費(補助金)の割合が高くなっている。		

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	27,720	26,856	-864
土地	7,150	7,150	0
建物	20,570	19,706	-864
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	27,720	26,856	-864
流動負債 R	534	558	24
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	534	558	24
その他	0	0	0
固定負債 S	6,517	5,646	-871
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	6,517	5,646	-871
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	7,051	6,204	-847
正味財産の部	20,669	20,652	-17
正味財産の部合計 U	20,669	20,652	-17
負債及び正味財産の部合計 V=U	27,720	26,856	-864
特微的事項	◆固定資産には、観光案内所の土地・建物が計上されている。		

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果】  
 ◆A 拡大する事業  
 【説明】  
 ◆舟運事業は、区の基本方針等である品川の大きな魅力の一つの水辺空間の利活用であり、かつ事業結果を踏まえて、令和5年度はしながわクルーズ事業(観光資源整備事業)として積極的に推進していく。  
 ◆その他の事業は、ニーズを正確に把握し、ブラッシュアップを図り、引き続き推進する。

(2) 最終評価

【評価結果】  
 ◆C 改善・見直しする事業  
 【説明】  
 ◆舟運事業については、受益者負担の観点から適正な乗船料を徴収するとともに、単発ではなく継続的に水辺がにぎわうよう効果的な打ち出しや事業スキームを検討する。  
 ◆観光パンフレットについては、類似するパンフレットの統合および必要な部数を精査し、作成・増刷する。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	外国人観光客誘致事業				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	都市型観光プラン推進事業
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	観光係

1 基本情報

長期基本計画	P48	政策の柱	まちの魅力を活かした都市型観光の推進
		基本的な考え方	観光情報の集約と多様な情報発信をする
総合実施計画	P48	実施計画事業	外国人観光客への観光情報発信
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	平成16年度 ~	関連する個別計画等	品川区都市型観光プラン
根拠法令要綱			

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆外国人観光客にしながら観光の魅力PRにより、旅先に選ばれることを目指す。
◆ショートトリップや旬なイベント情報の提供により快適な滞在環境の整備、口コミや情報発信によるリピーターの獲得を目指す。
【概要】
◆訪日観光客向けのWebサイトやSNS等を通じて、イベント、施設情報を多言語で発信する。
◆区内ゲストハウスを活用したツアーや羽田空港周辺自治体との連携事業を実施する。
◆観光案内標識の盤面更新や修復を必要に応じて実施する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
区内外国人宿泊数	泊	目標	330,000	330,000	330,000	330,000	380,000	区内への外国人の延べ宿泊日数(年間)【観光庁調査】
		実績	20,000	53,000	141,000		令和10年度	
海外向けSNS等閲覧数	件	目標		20,000	500,000	1,900,000	2,150,000	海外に向けて発信したSNS投稿やサイト記事、動画の閲覧数
		実績		3,107	1,862,749		令和10年度	
外国人観光客向けツアー参加人数	人	目標		20	30	60	85	海外からの観光客を主な対象としたゲストハウスツアーの参加人数
		実績		20	55		令和10年度	
羽田空港周辺エリア連携事業実施回数	回	目標		1	1	1	1	羽田空港周辺の大田区、川崎市と連携したインバウンド向け事業の実施回数
		実績		1	1		令和10年度	

取組内容・実績
◆訪日観光客向けのサイトやインフルエンサーを通じて、主に東南アジアを対象に観光情報を13件発信した。
◆品川周辺地域の地域行事や体験に参加する外国人向けツアーを10回実施した。
◆羽田空港周辺の大田区、川崎市と連携して、訪日旅行紹介サイトやインフルエンサーを通じて、羽田空港からの3自治体にまたがるモデルコース等のPR記事を発信した。

指標の達成状況
◆新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、海外からの旅行者数が大幅減となっていたが、既に復調しているため、今後は右肩上がり伸びていくと思われる。

必要性・有効性
◆直接的な効果を測りづらい事業であるが、海外からの観光客による消費規模は大きく、羽田空港からの好アクセスを考慮すると、投資する価値があるものと考えられる。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	0	0	0	0	0.00%
役務費	0	0	0	0	0.00%
委託料	9,012	9,012	0	0	100.00%
使用料及び賃借料	1,056	1,056	0	0	100.00%
工事請負費	782	726	0	56	92.84%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	1,250	1,247	0	3	99.77%
その他	0	0	0	0	0.00%
計	12,100	12,041	0	59	99.51%

決算額の主な内訳
◆委託料 9,012千円 (Web媒体による情報発信事業委託、ゲストハウスツアー事業委託)

効率性
◆執行率は99%と高く、適正に執行していると言えるが、インバウンド状況は変化が起りやすいため、時勢に注視し、適切な事業規模とすることが求められる。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A	勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	4,302	4,204	-98	流動資産 0	0	0	0
物件費	12,328	10,068	-2,260	収入未済	0	0	0
うち委託料	11,272	9,012	-2,260	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	223	726	503	その他	0	0	0
扶助費	0	0	0	固定資産 P	0	0	0
補助費等	0	1,247	1,247	土地	0	0	0
減価償却費	0	0	0	建物	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	1,045	403	-642	重要物品	0	0	0
その他	0	0	0	インフラ資産	0	0	0
小計 D	17,898	16,648	-1,250	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	243	254	11
都支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	賞与引当金	243	254	11
その他	0	0	0	その他	0	0	0
小計 E	0	0	0	固定負債 S	2,962	2,566	-396
行政収支差額 H=E-D	-17,898	-16,648	1,250	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	2,962	2,566	-396
通常収支差額 J=H+I	-17,898	-16,648	1,250	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0	負債の部合計 T=R+S	3,205	2,820	-385
特別収入 小計 L	0	0	0	正味財産の部	-3,205	-2,820	385
特別収支差額 M=L-K	0	0	0	正味財産の部合計 U	-3,205	-2,820	385
当期収支差額 N=J+M	-17,898	-16,648	1,250	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度:29.9% 令和4年度:27.7% ◆事業の大部分を委託により実施しているため、行政費用における物件費(委託料)の割合が高くなっている。			◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。			

6 評価

(1) 所管評価
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆インバウンド状況は変化が起りやすいため、各国からの来日状況や各国の趣味・趣向等の時勢に注視し、PR機会を逸さないよう、ブラッシュアップを図り、引き続き適時・適切に事業を展開する。
(2) 最終評価
【評価結果】
◆D 完了・中止・廃止する事業
【説明】
◆外国人に区を訪れていただくために、観光資源の見せ方など総合的な戦略が必要であり、ゼロベースでの見直しが必要である。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	フィルムコミッション事業				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	フィルムコミッション事業
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	観光係

1 基本情報

長期基本計画	P48	政策の柱	まちの魅力を活かした都市型観光の推進
		基本的な考え方	観光情報の集約と多様な情報発信をする
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成29年度 ~	関連する個別計画等	品川区都市型観光プラン
根拠法令要綱			

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆映画やドラマ等の映像制作会社の撮影場所探しへの支援により、作品に区を登場させる。
◆区が登場する作品のPRによりロケ地訪問を促す。
【概要】
◆映画やドラマ等の撮影事業者および作品の視聴者をターゲットとしたサイトに、ロケ地情報や区関連作品のコラム記事等を掲載する。
◆区のフィルムコミッション、区内ロケ地のPRとなる動画を制作する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
撮影問い合わせ対応件数	件	目標	50	55	60	65	90	事業者からの映画やドラマ等の撮影に関する問い合わせの対応件数
		実績	85	68	57		令和10年度	
フィルムコミッションサイト閲覧数(年間)	件	目標	90,000	123,000	124,000	125,000	130,000	品川区フィルムコミッションPRサイト「しなロケ」の閲覧数(年間)
		実績	99,870	123,882	124,831		令和10年度	
PR動画視聴数	回	目標	20,000	40,000	60,000	70,000	120,000	フィルムコミッションPR動画(8本)の視聴数(延べ)
		実績	27,361	52,477	62,850		令和10年度	
		目標						
		実績						

取組内容・実績
◆フィルムコミッションサイトに掲載した情報を契機に、テレビ事業者等から映画やドラマ等の撮影に関する問い合わせを57件受けた。
◆映画やドラマ等の撮影事業者および作品の視聴者をターゲットとしたサイトに、ロケ地情報や区関連作品のコラム記事等を55件掲載した。
◆区のフィルムコミッション、区内ロケ地のPRとなる動画を1本制作した。

指標の達成状況

◆撮影問い合わせ対応件数については、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時は減ったが、新規の問い合わせに加え、過去に対応した撮影事業者からのリピート相談や撮影事業者間の口コミにより、増加傾向となっている。  
 ◆一般的なフィルムコミッションサイトは撮影事業者を対象としているため、主にロケ地情報のみを掲載していることが多い。区では撮影事業者だけでなく、一般層を対象として定め、ロケ地情報の掲載や更新に加えて、品川区内をロケ地とした作品のコラム記事等のコンテンツを拡充し続けてきた結果、閲覧数がサイト立ち上げ時から年々増えている。  
 ◆PR動画については、フィルムコミッションサイトへの関連記事の掲載により、ターゲットに視聴させることができ、目標を達成できた。

必要性・有効性

◆サイトは、高い閲覧数のほか、フィルムコミッション関連の語句でGoogleの検索順位1位を獲得する等、需要を取り込めている。  
 ◆ロケ地巡りの需要は引き続き高く、ロケ地の切り口から区内への誘客を促進させる本事業は有効と考える。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	0	0	0	0	0.00%
役務費	0	0	0	0	0.00%
委託料	16,230	16,230	0	0	100.00%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.00%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	0	0	0	0	0.00%
計	16,230	16,230	0	0	100.00%

決算額の主な内訳

◆委託料 16,230千円(フィルムコミッションPR事業委託)

効率性

◆ターゲットにより届く手法やコンテンツを考え、適宜、事業内容とコストを踏まえたブラッシュアップを図っていく。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	6,884	6,727	-157
物件費	16,780	16,230	-550
うち委託料	16,780	16,230	-550
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	0	0	0
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	1,673	645	-1,028
その他	0	0	0
小計 D	25,337	23,602	-1,735
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-25,337	-23,602	1,735
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-25,337	-23,602	1,735
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-25,337	-23,602	1,735

◆人件費比率 令和3年度:33.8% 令和4年度:31.2%  
 ◆事業の大部分を委託により実施しているため、行政費用における物件費(委託料)の割合が高くなっている。

6 評価

(1)所管評価

【評価結果】  
 ◆C 改善・見直しする事業  
 【説明】  
 ◆本事業は好実績があり、品川区の魅力を活用した誘客を促すコンテンツとして有効性が高いため、ブラッシュアップを図り引き続き実施する。

(2)最終評価

【評価結果】  
 ◆D 完了・中止・廃止する事業  
 【説明】  
 ◆区フィルムコミッションサイトの閲覧者数は年々増加しているものの、区への来訪者の増加など具体的な成果につながっているかは検証が困難である。(一社)しながわ観光協会のホームページでのロケ地紹介など、代替手段も検討可能であることから廃止も視野に入れた検討が必要である。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	区民レクリエーション				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	文化活動支援事業
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	文化振興係

1 基本情報

長期基本計画	P40	政策の柱	伝統・文化を継承し親しむ環境づくり
		基本的な考え方	区民の文化・芸術活動を支援する
総合実施計画		実施計画事業	-
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	平成元年度～	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	社会教育法、品川区文化芸術・スポーツ振興関係共催事業分担金交付要綱、品川区文化芸術関係団体との共催事業に対する会場提供に関する要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆区民の活動団体を中心とした連盟等と共催事業を展開することで、区民の参加を促進して文化振興を図る。
【概要】
◆区民レクリエーション大会：区民の活動の活発化と参加の促進を図るため、将棋・囲碁・合唱等の連盟との共催により春季・秋季大会を開催する。
◆区民いけばな展：区民の活動の活発化と参加の促進を図るため、品川区華道茶道文化協会との共催により年1回開催する。
◆品川区民コンサート：品川区民管弦楽団の演奏を広く区民の皆様楽しんでいただく機会として、品川音楽文化協会との共催により年2回開催する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
区民レクリエーション大会の参加者数	人	目標	2,000	2,000	1,000	2,000	2,000	区民レクリエーション大会(吟剣・将棋・囲碁・合唱・短歌・麻雀)の参加者数
		実績	0	253	1,000		令和11年度	
区民いけばな展の入場者数	人	目標	550	550	400	550	550	区民いけばな展(2日間)の入場者数
		実績	0	0	712		令和11年度	
品川区民コンサートの入場者数	人	目標	1,500	1,500	1,050	1,050	1,500	品川区民コンサート(春・秋)の入場者数
		実績	0	522	1,036		令和11年度	
		目標						
		実績						

**取組内容・実績**

◆区民レクリエーション大会は、令和2年度(全事業)、令和3年度(吟剣詩舞道大会以外)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止した。令和4年度は、きゅりあん改修工事による、会場変更の影響で見込みどおりの実績となった。

◆区民いけばな展は、令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止した。令和4年度は、まちぐるみ文化イベントの関連事業として、会場のスクエア荏原(きゅりあん改修工事)でワークショップを行い通常よりも集客が伸びた。

◆品川区民コンサートは、令和2年度春・秋季と令和3年度春季は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止した。令和4年度は、会場変更による座席数の減少もあったが、春季に、昼・夜2回公演を試みて集客数の維持を図った。

指標の達成状況

◆区民レクリエーション大会は、令和元年度までは、計画どおりに事業を実施していたが、令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により一部を除いて中止にしたため、目標は未達成である。(令和5年度は、共催団体から辞退の申し出があったため、短歌大会は開催しない予定である。)

◆区民いけばな展は、令和4年度の目標を上回った。まちぐるみ文化イベントと同時開催したことが要因の一つだと考えられる。

◆品川区民コンサートは、令和4年度は、きゅりあん改修工事(令和4年2月～令和5年9月予定)の影響により座席数の少ないスクエア荏原(362席)に会場変更したため、参加者数は減少し目標は未達成である。

必要性・有効性

◆区民の活動団体による文化・芸術の魅力を伝える発表の場が求められており、区民レクリエーションはその役割を担っている。

◆本事業は、各団体の諸活動の支援を目的としており、サークル活動による子どもや高齢者の「生きがい」「夢」「つながり」を見つめることのきっかけとなっている。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	362	360	0	2	99.40%
役員費	39	31	0	8	78.26%
委託料	0	0	0	0	0.00%
使用料及び賃借料	456	334	0	122	73.32%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	3,631	3,631	0	0	100.00%
その他	3	0	0	3	4.20%
計	4,491	4,356	0	135	96.99%

決算額の主な内訳

◆需用費 360千円(賞状用紙、参加賞、大会トロフィー)  
 ◆使用料及び賃借料 334千円(合唱祭、将棋大会、いけばな展会場・設備使用料)  
 ◆負担金補助及び交付金 3,631千円(品川区吟剣詩舞道連盟他運営負担金、区民コンサート負担金)

効率性

◆使用料及び賃借料において、合唱祭の会場・設備使用料が想定に満たず、執行率が73%となった。  
 ◆補助金の予算額が過大にならないよう引き続き精査する。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	14,628	8,408	-6,220
物件費	121	725	604
うち委託料	0	0	0
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	1,045	3,631	2,586
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	3,555	806	-2,749
その他	0	0	0
小計 D	19,349	13,570	-5,779
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-19,349	-13,570	5,779
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-19,349	-13,570	5,779
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-19,349	-13,570	5,779

◆人件費比率 令和3年度：94.0% 令和4年度：67.9%  
 ◆令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で一部を除き事業を中止したが、令和4年度は事業を再開したため、補助費等が増加した。

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
流動負債 R	826	508	-318
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	826	508	-318
その他	0	0	0
固定負債 S	10,072	5,133	-4,939
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	10,072	5,133	-4,939
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	10,898	5,641	-5,257
正味財産の部	-10,898	-5,641	5,257
正味財産の部合計 U	-10,898	-5,641	5,257
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果】  
 ◆C 改善・見直しする事業  
 【説明】  
 ◆いけばな展では、新たにワークショップを行い集客が伸びているため、他の事業でも実施方法等の新たな工夫を図っていく。

(2) 最終評価

【評価結果】  
 ◆C 改善・見直しする事業  
 【説明】  
 ◆所管評価に同意する。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	各種団体支援				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	地域振興費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	文化振興係

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画		実施計画事業	-
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	昭和47年度 ~	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	自主グループ講師派遣実施要領 (社会教育法第11条2による社会教育関係団体への援助)、品川区文化芸術・スポーツ振興関係事業委託要綱、区民プロデュース型講座・講演会開設実施要領		

2 事業の目的・概要

【目的】	◆生涯学習社会の実現を図るため、団体の自主的な活動を支援する。
【概要】	◆社会教育関係団体の登録 登録制度を設け、施設優先申込みや使用料の減免等、団体の育成と発展に資するために必要な支援を行う。 ◆自主グループ講師派遣 活動の充実を図るため、自主グループが行う学習会の講師謝礼の一部を区が負担する。 ◆区民プロデュース型講座 区民を中心とした団体が文化・高齢者の福祉などの内容で広く区民を対象に企画した講座・講演会の開催を支援する。 ◆生涯学習ボランティア保険 社会教育関係団体 (少年少女) 等の指導者・育成者などを対象に、保険料を負担する。 ◆生涯学習ハンドブックの作成 区が行っている講習会等の情報を一元化した情報誌を作成する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
社会教育関係団体数	団体	目標	1,200	1,200	1,200	1,200	1,300	社会教育関係団体に登録している団体数
		実績	1,226	1,289	1,268		令和11年度	
自主グループ講師派遣件数	件	目標	60	60	60	60	60	自主グループ講師を派遣した件数
		実績	43	33	36		令和11年度	
区民プロデュース型講座実施団体数	団体	目標	9	9	9	9	9	区民プロデュース型講座を実施した団体
		実績	2	2	6		令和11年度	
生涯学習ボランティア保険加入団体数	団体	目標	50	50	50	50	50	生涯学習ボランティア保険に加入した団体数
		実績	49	51	48		令和11年度	

取組内容・実績	◆社会教育関係団体について、団体登録を促し区内文化施設を利用しやすくすることで、団体活動の支援につなげた。 ◆自主グループ講師派遣について、講師謝礼の補助を行うことで、団体活動の支援につなげた。 ◆区民プロデュース型講座について、団体が実施する講座の開催を支援することで、団体の会員拡大につなげた。 ◆生涯学習ボランティア保険について、少年少女団体の指導者・育成者のボランティアを対象に事故の補償を設けることで、団体活動の円滑な実施を支援した。
---------	---

指標の達成状況

◆令和2年度以降、社会教育関係団体の登録数は、1,250団体前後を維持している。 ◆自主グループ講師派遣・区民プロデュース型講座・生涯ボランティアについて、令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響が残っており、各団体の活動が低調であったことから、目標に達しなかった。
---

必要性・有効性

◆本事業は「生きがい」「夢」「つながり」を見つけることのきっかけとなる、各団体の諸活動の支援を目的としており、団体が自主的な活動を継続するうえで大きな役割を担っている。
--

4 予算・決算 (概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	635	601	0	34	94.68%
役務費	938	730	0	208	77.78%
委託料	1,100	961	0	139	87.37%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.00%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	859	360	0	499	41.91%
計	3,532	2,652	0	880	75.08%

決算額の主な内訳

- ◆需用費 601千円 (生涯学習ガイドブック作成費)
- ◆役務費 730千円 (郵便代、ボランティア保険料)
- ◆委託料 961千円 (区民プロデュース型講座委託費)
- ◆その他 360千円 (自主グループ講師謝礼)

効率性

- ◆自主グループ講師派遣など各種事業の実績が目標に達しなかったため、講師謝礼や保険料などの執行が想定に満たず、執行率が75.1%にとどまった。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	5,163	6,727	1,564
物件費	991	1,572	581
うち委託料	400	961	561
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	1,084	1,079	-5
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	1,255	645	-610
その他	0	0	0
小計 D	8,493	10,023	1,530
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-8,493	-10,023	-1,530
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-8,493	-10,023	-1,530
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-8,493	-10,023	-1,530

- ◆人件費比率 令和3年度：75.6% 令和4年度：73.6%
- ◆主たる業務を直接区職員が行っているため、行政費用における人件費の割合が高くなっている。
- ◆物件費のうち委託料について、新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、区民プロデュース型講座の受託団体が増えたことで費用も増加した。

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
流動負債 R	291	406	115
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	291	406	115
その他	0	0	0
固定負債 S	3,555	4,106	551
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	3,555	4,106	551
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	3,846	4,512	666
正味財産の部	-3,846	-4,512	-666
正味財産の部合計 U	-3,846	-4,512	-666
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

- ◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

- 【評価結果】
- ◆C 改善・見直しする事業
- 【説明】
- ◆区民プロデュース型講座および自主グループ講師派遣について令和2年度以降件数が減少しているが、予算の範囲内で採択件数を増やせるよう新たな工夫を図っていく。

(2) 最終評価

- 【評価結果】
- ◆C 改善・見直しする事業
- 【説明】
- ◆所管評価に同意する。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	文化芸術・スポーツ活動支援事業				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	文化活動支援事業
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	文化振興係

1 基本情報

長期基本計画	P40	政策の柱	伝統・文化を継承し親しむ環境づくり
		基本的な考え方	区民の文化・芸術活動を支援する
総合実施計画	P37	実施計画事業	文化・芸術に触れる機会の充実
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	平成21年度 ~	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	文化芸術基本法、品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例、品川区文化スポーツかがやき顕彰要綱、品川区文化芸術・スポーツ振興関係共催事業分担金交付要綱、しながわ文化活性化事業助成金交付要綱		

2 事業の目的・概要

【目的】
◆区民が気軽に文化芸術にふれ親しむために、幅広いジャンルの文化芸術事業を展開する。
◆文化芸術団体や文化芸術資源の可能性や魅力を引き出し、観光や福祉といった他の分野と連携しながら、魅力あるまちづくりや地域の活性化につなげる。
◆伝統文化や伝統芸能を次世代へ継承・発展・普及させるため、それらに触れる機会創出の支援を行う。
◆区民等の自主的な文化芸術活動およびスポーツ活動を促進する。
【概要】
◆文化芸術団体が主体的に事業を運営できるよう区内で実施する文化芸術イベントを支援する。
◆日常に溶け込んだ「文化・芸術」「観光」「地域の力」などを結集した、まちぐるみの文化イベントを開催する。
◆(公財)十四世六平太記念財団との共催事業である「能楽鑑賞会」に対して支援を行う。
◆文化芸術およびスポーツ活動で優秀な成績をおさめた生徒・児童等を顕彰する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
能楽鑑賞会の来場者数 (年間)	人	目標	850	850	850	850	950	(公財)十四世六平太記念財団との共催である能楽鑑賞会の来場者数(2回分合計) ※令和3年度までは品川薪能の実績
		実績	0	0	473		令和11年度	
まちぐるみ文化イベント 来場者数	人	目標			10,000	15,000	20,000	まちぐるみ文化イベント(あつまれ!えばら)の来場者数
		実績			22,030		令和11年度	
しながわ文化活性化事業 助成採択件数	件	目標			8	8	8	しながわ文化活性化事業助成金の採択事業の件数
		実績			7		令和11年度	
かがやき顕彰の件数(年間)	件	目標	28	25	25	25	25	品川区文化スポーツかがやき顕彰の顕彰件数
		実績	8	31	31		令和11年度	

【取組内容・実績】
◆令和4年度は、手話を活かした能狂言である「手話」で楽しむ能狂言鑑賞会、雅楽を取り入れた「品川能楽鑑賞会」を喜多能楽堂で開催した。
◆令和4年度から、新たに、まちぐるみ文化イベント(通称:「あつまれ!えばら」)を開催。区内の文化芸術団体の協力や出展も取り入れ、区民のだれもが文化芸術を楽しむことができるよう努めた。
◆令和4年度からしながわ文化活性化事業助成を開始した。11件の申請のうち、文化イベント7件を採択。各採択事業の準備から実施までのサポートとして、(公財)品川文化振興事業団と連携し、広報周知等の支援を行った。
◆文化やスポーツの大会で優秀な成績をおさめた区民の方を対象に顕彰をしている。令和4年度は、31件を顕彰した。

指標の達成状況

◆令和4年度の能楽鑑賞会の来場者数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、計画を下回った。令和5年度は、令和4年度よりも会場規模が大きいきゅりあん(席数1080席)で開催する。
◆令和4年度のまちぐるみ文化イベント来場者数は、計画を大幅に上回った。近隣住民へのポスティング、文化芸術団体だけでなく町会・自治会、商店街といった様々な団体との積極的な連携が来場者数の増加につながった。イベントが地域に根付くよう、令和5年度も引き続き開催予定である。
◆令和4年度のしながわ文化活性化事業助成採択件数は、7件となり、計画を下回った。令和5年度は、広報周知や申請方法を変更し、計画達成を目指す。
◆かがやき顕彰について、令和3年度以降、計画を上回っている。各関係部署へ制度の存在を周知しており、認知度が高まっている。

必要性・有効性

◆区民が「能楽」という伝統文化にふれる機会を創出する事業を支援することは有意義である。区が支援することで、普段あまり伝統文化に親しみのない区民の方が認知するきっかけとなり、伝統文化の継承や発展につながる。
◆まちぐるみ文化イベントをきっかけに、区民が幅広いジャンルの文化芸術を楽しめる機会だけでなく、区内の様々な文化芸術団体やアーティストの出演、発表の機会も生まれる。また、荏原地区全体を会場にすることで、区民の方に荏原地区を知ってもらい、魅力を感じてもらおうといった地域の愛着心を育む土台づくりに寄与する。
◆しながわ文化活性化事業助成を通じて、小規模な文化芸術団体への事業実施までの継続的な支援ができ、区民へ多様なジャンルの文化芸術を感じる機会を提供できる。また、これまで区と関連の薄かったジャンルを取り扱う団体の発見やその振興につながる。
◆文化やスポーツに励む区民の方を顕彰することで、主体的な活動を促す効果が期待できる。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	1,023	1,023	0	0	100.00%
役務費	17	6	0	11	36.16%
委託料	4,300	4,300	0	0	100.00%
使用料及び賃借料	18	0	0	18	0.00%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	18,600	17,906	0	694	96.27%
その他	8	1	0	7	6.65%
計	23,966	23,236	0	730	96.95%

決算額の主な内訳

◆負担金補助及び交付金 17,906千円(能楽鑑賞会等運営負担金、まちぐるみ文化イベント運営負担金、しながわ文化活性化事業助成金)
◆委託料 4,300千円(しながわ文化活性化事業助成採択団体等支援委託)
◆需用費 1,023千円(かがやき顕彰横断幕等作成他)

効率性

◆役務費、使用料及び賃借料の執行内容を見直した結果、令和5年度は予算要求していない。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	14,628	13,453	-1,175
物件費	20,455	5,330	-15,125
うち委託料	18,998	4,300	-14,698
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	14,911	17,906	2,995
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	3,555	1,290	-2,265
その他	0	0	0
小計 D	53,549	37,979	-15,570
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-53,549	-37,979	15,570
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-53,549	-37,979	15,570
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-53,549	-37,979	15,570
特徴的事項	◆人件費比率 令和3年度:34.0% 令和4年度:38.8% ◆令和4年度について、費用の約5割は、各事業に対する負担金補助及び交付金である。 ◆委託内容の見直しにより、令和4年度は、令和3年度に比べて委託料が大幅に減少した。それに伴い、令和4年度の費用全体に占める物件費の割合も低下した。		

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 Q	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=Q+P	0	0	0
流動負債 R	826	812	-14
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	826	812	-14
その他	0	0	0
固定負債 S	10,072	8,213	-1,859
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	10,072	8,213	-1,859
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	10,898	9,025	-1,873
正味財産の部	-10,898	-9,025	1,873
正味財産の部合計 U	-10,898	-9,025	1,873
負債及び正味財産の部合計 V=U	0	0	0
特徴的事項	◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。		

6 評価

(1)所管評価

【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆新型コロナウイルス感染症の影響で一時的に滞った様々な文化芸術活動がより活性化するように、改善を重ねながら各種支援を行う。
◆令和4年度から新たにスタートした事業で得られた知見を活かし、絶え間なく変化する文化芸術活動の支援のニーズに対して柔軟に対応することで、区民の「生きがい」「夢」「つながり」発見のきっかけづくりに貢献する。

(2)最終評価

【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆所管評価に同意する。



令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	品川区民芸術祭経費				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	文化活動支援事業
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	文化振興係

1 基本情報

長期基本計画	P38	政策の柱 基本的な考え方	伝統・文化を継承し親しむ環境づくり 将来を支える次世代を育成する
総合実施計画	P37	実施計画事業 現況 必要事業量	文化・芸術に触れる機会の充実 - -
事業期間	平成22年度 ~	関連する個別計画等	品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン
根拠法令要綱	品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例、品川区民芸術祭実行委員会設置要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要	<p>【目的】</p> <p>◆区にゆかりのある音楽家・芸術家の協力を得ながら、区民の誰もが気軽に参加・鑑賞でき、質の高い文化芸術に触れ親しむ機会を創出する。</p> <p>【概要】</p> <p>◆公益財団法人品川文化振興事業団との共催事業として実施する。</p> <p>◆区民による書道・写真・絵画・手工芸・華道などの芸術作品を展示する「区民作品展」を実施する。</p> <p>◆区内で活動するアマチュアの文化芸術団体・サークル活動の発表の機会を設ける「区民参加イベント（しながわアマチュアステージ）」を実施する。</p> <p>◆区内の小・中・高生・大学生・社会人による日頃の活動発表および交流の機会として「ティーンズコンサート」を実施する。</p> <p>◆品川ゆかりのプロの団体や個人の協力を得て、区民の誰もが親しめるよう、特に良質で安価なコンサートなどを提供し、芸術祭を通して文化芸術に「触れ・親しみ・楽しむ」ことができる環境を作る。</p>
-------	---

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
品川区民芸術祭事業の参加人数	人	目標	14,000	14,500	14,500	14,600	14,900	品川区民芸術祭期間（9月～11月）に実施した「コンサート・アマチュアステージ・区民作品展」への参加者・来場者数
		実績	2,977	4,600	8,244		令和11年度	
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

**取組内容・実績**

◆共催団体である公益財団法人品川文化振興事業団が実施した事業「品川アーティスト展2022」、「ドリームステージ2022太鼓の調べ～祭事夢物語～」、「響 長谷川耕史 書くというプレゼント（O美術館企画展）」については、消毒検温の徹底など新型コロナウイルス感染症の対策を万全に行ったうえで実施した。

◆「区民作品展」については、審査員が作品について講評を行い出展者から自分の作品についてアドバイスをもらえたと好評を得た。

◆「区民参加イベント」については、参加者による運営委員会形式をとっており、より自主性を高める運営方式に工夫し変更した。

◆「ティーンズコンサート」については、区内の学生が普段の練習成果を発表するとともに、社会人も含めた幅広い世代が集まり交流を深めることができた。

**指標の達成状況**

◆令和元年度までは計画どおり事業を実施していたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で事業そのものを中止にせざるを得ない状況にあった。

◆令和2年度は大部分の事業が中止となったが、令和3年度は区民参加イベントや音楽部門など一部の事業を実施することができたため参加人数は微増した。

◆令和4年度は全事業を実施したが、入場者を制限するなど対策をおこなったため、前年度より参加人数は増加したが目標値には届かなかった。

**必要性・有効性**

◆区民が日常的に実施している文化芸術活動を発表する場が求められており、アマチュアステージはその場としての役割を担っている。

◆区民の感性をより豊かなものにするため、気軽に文化芸術に触れることができる機会の創出が求められており、区民作品展や品川文化振興事業団が実施するコンサート等の事業はその機会としての役割を担っている。

◆本事業は文化・芸術活動をおし「生きがい」「夢」「自己表現」の喜びを見つけることのきっかけとなり、区民の幸福（しあわせ）を実現するため必要な事業となっている。

4 予算・決算（概要）

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	976	684	0	292	70.11%
役員費	377	155	0	222	41.02%
委託料	2,601	2,462	0	139	94.67%
使用料及び賃借料	823	634	0	189	77.04%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	20,703	16,069	0	4,634	77.62%
その他	866	671	0	195	77.47%
計	26,346	20,676	0	5,670	78.47%

**決算額の主な内訳**

◆需用費 684千円（チラシ印刷他）

◆委託料 2,462千円（作品展会場設営等委託他）

◆使用料及び賃借料 634千円（作品展会場使用料他）

◆負担金補助及び交付金 16,070千円（品川文化振興事業団分担金）

**効率性**

◆新型コロナウイルス感染症の対策を徹底し全事業を実施することで、75%を超える執行率を維持することができた。

◆品川区の地域文化団体に精通している公益財団法人品川文化振興事業団と共催で実施することで、効率的効果的に事業を実施できた。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A	勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	10,326	11,772	1,446	流動資産 0	0	0	0
物件費	3,405	3,928	523	収入未済	0	0	0
うち委託料	1,788	2,462	674	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	0	0	0	その他	0	0	0
扶助費	0	0	0	固定資産 P	0	0	0
補助費等	20,782	16,747	-4,035	土地	0	0	0
減価償却費	0	0	0	建物	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	2,509	1,129	-1,380	重要物品	0	0	0
その他	0	0	0	インフラ資産	0	0	0
小計 D	37,022	33,576	-3,446	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	583	711	128
都支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	賞与引当金	583	711	128
その他	0	0	0	その他	0	0	0
小計 E	0	0	0	固定負債 S	7,109	7,186	77
行政収支差額 H=E-D	-37,022	-33,576	3,446	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	7,109	7,186	77
通常収支差額 J=H+I	-37,022	-33,576	3,446	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0	負債の部合計 T=R+S	7,692	7,897	205
特別収入 小計 L	0	0	0	正味財産の部	-7,692	-7,897	-205
特別収支差額 M=L-K	0	0	0	正味財産の部 合計 U	-7,692	-7,897	-205
当期収支差額 N=J+M	-37,022	-33,576	3,446	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度：34.7% 令和4年度：38.4%			◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。			
	◆費用の大半を占める補助費等は品川文化振興事業団への分担金であり、全体の大きな割合を占めている。						

6 評価

(1) 所管評価	<p>【評価結果】</p> <p>◆C 改善・見直しする事業</p> <p>【説明】</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症拡大のため停滞していた文化活動を活性化させるため、実施方法も含めより効果的に事業を運営できるよう検討を進める。</p>
(2) 最終評価	<p>【評価結果】</p> <p>◆C 改善・見直しする事業</p> <p>【説明】</p> <p>◆所管評価に同意する。</p>

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	品川文化振興事業助成金				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	文化活動支援事業
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	文化振興係

1 基本情報

長期基本計画	政策の柱	伝統・文化を継承し親しむ環境づくり
	基本的な考え方	区民の文化・芸術活動を支援する
総合実施計画	実施計画事業	財団が実施する事業に対する管理運営費および事業費補助
	現況	-
	必要事業量	-
事業期間	昭和61年度 ~	関連する個別計画等
根拠法令要綱	品川区補助金等交付規則、公益財団法人品川文化振興事業団に対する助成に関する条例、公益財団法人品川文化振興事業団補助金交付要綱	

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆区民の高度で多様化した文化的要望に応えるとともに、文化の振興を通して、ゆとりと潤いのある地域社会づくりに寄与する。
【概要】
◆地域で文化・芸術活動を行うアーティストの活動を支援するとともに、地域団体等との連携を図る。
◆事業情報紙 i n f o C U R I A (紙・電子)により区内文化・芸術活動を周知および発信する。
◆区民に身近な施設において安価にてカルチャー講座を開設・運営し、区民の生涯学習の推進を図る。
◆芸術団体および地域住民の発表の場として美術館を運営・提供し、芸術を身近に感じられる機会を提供する。
◆落語や映画、バレエ、音楽など多彩なジャンルおよび、有名アーティストから区にゆかりのあるアーティストまで、幅広い出演者による文化・芸術公演を区民が安価で楽しむことができる環境を提供する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
ゆかりアーティスト登録者数	人	目標	60	70	80	90	100	
		実績	59	74	83		令和11年度	
〇美術館入場者数	人	目標	6,000	12,000	23,000	25,000	28,000	
		実績	6,085	12,632	23,605		令和11年度	
メイプルカルチャーセンター受講者数	人	目標	1,200	2,400	3,500	5,000	9,000	
		実績	1,231	2,408	3,262		令和11年度	
主催・共催公演入場者数	人	目標	10,000	15,000	7,000	10,000	20,000	
		実績	4,214	12,899	6,582		令和11年度	

**取組内容・実績**  
 ◆大井競馬場で実施された「しながわホッケーファンゾーン」「東京メガイルミしながわデー」など、7つの地域イベント(延べ12日間)にゆかりアーティスト、アート応援マスコットしな一とを派遣し、地域の文化・芸術の振興を図った。  
 ◆メイプルカルチャーセンターでは、コロナ禍で休止していた運動系の講座を段階的に再開した。単純に以前の状況に戻すのではなく、地域顧客のニーズに応えた新たな形でのサービスを提供する。  
 ◆積極的に大ホール等の会場使用の誘致を行い、共催事業の回数を増やすことで、主催事業減による経費の削減・魅力的かつ質の高い公演を区民へ提供することができた。

指標の達成状況

◆アート応援マスコット「しな一と」を活用したSNSからの発信、積極的な地域イベントへの参加によりゆかりアーティストの登録目標は達成した。  
 ◆〇美術館の来館者は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、目標を達成しているが更なる利用者増を目指している。  
 ◆新型コロナウイルス感染症の影響でカルチャー講座の受講者は激減し、目標に比して客足は戻っていない。  
 ◆新型コロナウイルス感染症の感染拡大、きゅりあん大ホールの改修の影響を受け、目標・実績ともに未達に終わったが、令和5年度は年度後半よりきゅりあん大ホールが利用可能となるため、約1.5倍の集客増を目指す。

必要性・有効性

◆多角的に文化芸術・生涯学習事業を展開することにより、活力と賑わいのあるまちづくりに貢献している。  
 ◆地域の文化芸術団体等と連携して事業を展開しているほか、区内各所で実施する事業の周知等も行っており、地域全体での文化・芸術レベルの向上に寄与している。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	0	0	0	0	0.00%
役務費	0	0	0	0	0.00%
委託料	0	0	0	0	0.00%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.00%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	329,381	285,337	0	44,044	86.63%
その他	0	0	0	0	0.00%
計	329,381	285,337	0	44,044	86.63%

決算額の主な内訳

◆負担金補助及び交付金 285,337千円(メイプルセンター運営補助金、〇美術館等運営補助金、コンサート事業費補助金 他)

効率性

◆執行率は86.6%と高いが、各事業における委託費などコストダウンを図れる点もある。また、時代に即した事業のスクラップアンドビルドなど、検証すべき点も多いことから、区と品川文化振興事業団で連携を取りながら今後の在り方を検討する必要がある。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	4,302	4,204	-98
物件費	0	0	0
うち委託料	0	0	0
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	283,330	285,337	2,007
減価償却費	743	743	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	1,045	403	-642
その他	0	0	0
小計 D	289,420	290,687	1,267
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-289,420	-290,687	-1,267
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-289,420	-290,687	-1,267
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-289,420	-290,687	-1,267

◆人件費比率 令和3年度:1.8% 令和4年度:1.6%  
 ◆補助費等がコストの大勢を占める。補助額は収益を相殺した額であり、収入額は計上されておらず全額が費用となるため、収支差額はマイナスとなる。コロナ禍・きゅりあん大規模修繕による休館、固定費に近い性質を持つ補助であることなどにより大規模な経年変化は生じなかった。

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 〇	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	478,527	477,784	-743
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	8,527	7,784	-743
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	470,000	470,000	0
資産の部合計 Q=〇+P	478,527	477,784	-743
流動負債 R	243	254	11
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	243	254	11
その他	0	0	0
固定負債 S	2,962	2,566	-396
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	2,962	2,566	-396
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	3,205	2,820	-385
正味財産の部	475,322	474,964	-358
正味財産の部合計 U	475,322	474,964	-358
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	478,527	477,784	-743

◆資産はほぼ全てを出資金が占める。  
 ◆工作物は減価償却により経年変化が生じた。  
 ◆負債は賞与・退職金の引当金の計上のみである。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果】  
 ◆B 継続する事業  
 【説明】  
 ◆文化振興事業団は区や地域団体と連携し、文化芸術・生涯学習の振興を図っており、活力と賑わいのあるまちづくりに貢献している。  
 ◆今後も地域に寄り添いつつ文化芸術の振興を図ることは必須であるため、継続して実施する。

(2) 最終評価

【評価結果】  
 ◆B 継続する事業  
 【説明】  
 ◆所管評価に同意する。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	社会教育委員会議運営費				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	文化活動支援事業
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	文化振興係

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成18年度 ~ 平成20年度	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	社会教育法、品川区社会教育委員の設置に関する条例、品川区社会教育委員会議運営要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆社会教育行政に広く地域の意見等を反映させるため、教育委員会の諮問機関として設けられた制度である。
◆昭和24年の「社会教育法」の制定で法律上の根拠が与えられた。
【概要】
◆社会教育委員会議を開催し、社会教育行政に関する助言をする。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
社会教育委員会議の開催回数	回	目標	5	5	5	5	5	社会教育委員会議を開催した回数
		実績	0	0	0		令和11年度	
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

**取組内容・実績**  
 ◆社会教育行政に広く地域の意見等を反映させるため設置している委員会である。  
 ◆社会教育法においては、社会教育に関し教育委員会に助言するとされている。  
 ◆第25期（平成18年3月1日～平成20年2月29日）を最後に諮問を要する事案はなく、平成21年度以降は未設置の状況である（社会教育委員も委嘱されていない）。

**指標の達成状況**  
 ◆前述のとおり、平成21年度以降開催を見送っていることから未達成である。

**必要性・有効性**  
 ◆平成21年度以降、社会教育委員に諮問を要する事案は生じておらず、会議のあり方について再検討する必要がある。

4 予算・決算（概要）

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	105	0	0	105	0.00%
役務費	22	0	0	22	0.00%
委託料	0	0	0	0	0.00%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.00%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	799	0	0	799	0.00%
計	926	0	0	926	0.00%

**決算額の主な内訳**  
 ◆主に予算計上されているのは、委員謝礼や郵券などの事務用経費である。  
 ◆令和4年度については、諮問を要する事案がなく、開催を見送った。

**効率性**  
 ◆前述のとおり未開催につき、予算を執行しなかったが、今後の開催にあたっては、ペーパーレス化を推進するなど、創意工夫が必要である。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A	勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	0	0	0	流動資産 0	0	0	0
物件費	0	0	0	収入未済	0	0	0
うち委託料	0	0	0	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	0	0	0	その他	0	0	0
扶助費	0	0	0	固定資産 P	0	0	0
補助費等	0	0	0	土地	0	0	0
減価償却費	0	0	0	建物	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	0	0	0	重要物品	0	0	0
その他	0	0	0	インフラ資産	0	0	0
小計 D	0	0	0	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	0	0	0
都支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	賞与引当金	0	0	0
その他	0	0	0	その他	0	0	0
小計 E	0	0	0	固定負債 S	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	0	0	0	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	0	0	0	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0	負債の部合計 T=R+S	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0	正味財産の部	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0	正味財産の部 合計 U	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	0	0	0	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0
特徴的事項	◆人件費比率 令和3年度：0.0% 令和4年度：0.0%			特徴的事項	◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。		

6 評価

(1) 所管評価
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆社会教育委員が委嘱されていない状況であることから、会議の必要性を含め、今後のあり方について検討する。
(2) 最終評価
【評価結果】
◆D 完了・中止・廃止する事業
【説明】
◆教育委員会での諮問機関という目的で設置している以上、すでにその役目を終えたことから廃止とする。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	文化活動関係事務費				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	文化活動支援事業
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	文化振興係

1 基本情報

長期基本計画	政策の柱	—
	基本的な考え方	—
総合実施計画	実施計画事業	—
	現況	—
	必要事業量	—
事業期間	～	関連する個別計画等
根拠法令要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆文化観光課における各種事務事業の執行に必要な事務用品等の整備を行い、各係の事務事業の円滑な執行を確保する。
【概要】
◆課内共通事務経費の管理を行う。
①事務用品 (文具・用紙代他)
②全国人権・同和教育研究大会等、各種大会参加費および旅費

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	目標	指標の定義
			(2020年度)	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(達成年度)	
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

取組内容・実績
◆課内消耗品 (複合機印刷料、課内事務用品、新聞購読、名刺等) の購入を行った。
◆本職員の近接地内旅費の支出を行った。
◆施設予約システムの利用料について、情報推進課へ執行委任を行った。

指標の達成状況

必要性・有効性
◆文化観光課の円滑な事務事業の執行にあたり、必要な経費である。

4 予算・決算 (概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	3,074	2,049	0	1,025	66.66%
役務費	277	259	0	18	93.49%
委託料	0	0	0	0	0.00%
使用料及び賃借料	3,505	3,504	0	1	99.98%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	424	419	0	5	98.77%
負担金補助及び交付金	13	0	0	13	0.00%
その他	304	95	0	209	31.40%
計	7,597	6,327	0	1,270	83.27%

決算額の主な内訳

- ◆使用料及び賃借料 3,504千円 (施設予約システム利用料)
- ◆需用費 2,049千円 (電子複写機使用賃借および消耗品供給、印刷製本費他)

効率性

- ◆執行率は83%と予算内において効率的に執行している。
- ◆令和6年度から、施設予約システムがリニューアルするため、ランニングコストの変動が見込まれる。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	5,163	7,567	2,404
物件費	6,167	6,286	119
うち委託料	0	0	0
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	26	41	15
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	1,255	726	-529
その他	0	0	0
小計 D	12,611	14,620	2,009
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	5,837	0	-5,837
小計 E	5,837	0	-5,837
行政収支差額 H=E-D	-6,774	-14,620	-7,846
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-6,774	-14,620	-7,846
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-6,774	-14,620	-7,846

- ◆人件費比率 令和3年度：50.9% 令和4年度：56.7%
- ◆令和4年度について、行政費用の約5割は旅費等含む給与関係費である。

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
流動負債 R	291	457	166
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	291	457	166
その他	0	0	0
固定負債 S	3,555	4,620	1,065
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	3,555	4,620	1,065
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	3,846	5,077	1,231
正味財産の部	-3,846	-5,077	-1,231
正味財産の部 合計 U	-3,846	-5,077	-1,231
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

- ◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

- 【評価結果】
- ◆B 継続する事業
- 【説明】
- ◆文化観光課の円滑な事務事業の執行を行うため、今後も継続をする。

(2) 最終評価

- 【評価結果】
- ◆C 改善・見直しする事業
- 【説明】
- ◆DX推進基本方針に基づき、ペーパーレス化の徹底による電子決裁率100%の実現とAIやRPAなどデジタル技術を活用した業務の効率化を進める。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	区民学習支援経費				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	生涯学習推進事業
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	生涯学習係

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画	P30	実施計画事業	-
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	昭和50年度 ~	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	地方教育行政の組織及び運営に関する法律		

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】 ◆学習のきっかけづくりとなるような幅広いジャンルの講座を実施し、行政課題への関心や郷土愛を育むことを目的とする。また、差別のない明るいまちづくりをめざし、人権差別(同和)問題の啓発を主軸に人権尊重教育の充実を図る。
【概要】 ◆専門講座の実施 ◆地域講座の実施 ◆しながわ学の実施 ◆しながわ塾の実施 ◆パートナーシップ講座の実施 ◆しながわ学びの杜特別講演会の実施 ◆チャレンジ塾の実施 ◆講座のインターネット配信の実施 ◆人権啓発・社会同和教育講座Ⅰの実施 ◆人権啓発・社会同和教育講座Ⅱの実施

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
オープンカレッジ延べ参加人数	人	目標	1,997	6,485	6,261	7,544	10,084	オープンカレッジ延べ参加人数
		実績	2,593	5,592	5,432		令和8年度	
講座のインターネット配信視聴回数	回	目標	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	講座のインターネット配信視聴回数
		実績	1,028	0	299		令和5年度	
		目標						
		実績						

**取組内容・実績**  
 ◆16歳以上の区内在住・在勤・在学の方を対象に、区の主催講座・大学との共催講座等を実施。  
 ※チャレンジ塾については知的障害(愛の手帳)がある方のみを対象としている。  
 ◆新型コロナウイルス感染症対策を講じ、大学等と協議の上、対面開催・オンライン開催などの開講方法を決定した。  
 ◆令和3年度インターネット配信については、新型コロナウイルス感染症の影響により各大学がでオンラインにて講座を実施したため、配信希望がなく実施しなかった。

指標の達成状況

◆令和2~4年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により規模を縮小して開催した。  
 ◆令和5年度以降は国や都の基準を考慮の上、段階的に以前の基準に戻していく。

必要性・有効性

◆区民の生きがいがづくりや学びを提供する上で大きな役割を担っている。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	2,231	2,013	0	218	90.22%
役務費	156	155	0	1	99.08%
委託料	693	440	0	253	63.49%
使用料及び賃借料	504	200	0	304	39.74%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	4,033	2,727	0	1,306	67.61%
計	7,617	5,535	0	2,082	72.67%

決算額の主な内訳

◆需用費 2,013千円(開催要項チラシ・ポスター、事務用品他)  
 ◆その他 2,727千円(講師謝礼他)

効率性

◆地域講座・しながわ学・しながわ塾は事業コンセプトが類似しているため、棲み分けの明確化や統合を検討していく必要がある。  
 ◆開催要項のチラシ・ポスターの不要分が多いため、発注枚数を検討する必要がある。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	30,117	26,066	-4,051
物件費	2,190	2,831	641
うち委託料	0	440	440
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	1,733	2,703	970
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	6,676	2,380	-4,296
その他	0	0	0
小計 D	40,716	33,980	-6,736
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	165	3,354	3,189
小計 E	165	3,354	3,189
行政収支差額 H=E-D	-40,551	-30,626	9,925
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-40,551	-30,626	9,925
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-40,551	-30,626	9,925

◆人件費比率 令和3年度:90.4% 令和4年度:83.7%  
 ◆主たる業務を直接区職員が行っているため、行政費用における人件費の割合が高くなっている。  
 ◆行政収入のその他(諸収入)は講座受講料であり、新型コロナウイルス感染症の状況緩和に伴い、講座の実施数・定員を拡大したため、大きく増加している。

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
流動負債 R	1,700	1,573	-127
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	1,700	1,573	-127
その他	0	0	0
固定負債 S	18,366	13,859	-4,507
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	18,366	13,859	-4,507
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	20,066	15,432	-4,634
正味財産の部	-20,066	-15,432	4,634
正味財産の部合計 U	-20,066	-15,432	4,634
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果】  
 ◆C 改善・見直しする事業  
 【説明】  
 ◆コンセプトが類似している事業の棲み分け・統合等の検討を行う。

(2) 最終評価

【評価結果】  
 ◆C 改善・見直しする事業  
 【説明】  
 ◆コンセプトが類似している事業の棲み分け・統合等の検討を行い、効率的な運用を行う必要がある。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	シルバー大学					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費		事業	生涯学習推進事業	
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課		担当係	生涯学習係

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画	P30	実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成5年度～	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	品川シルバー大学設置に関する要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆高齢者がいきがいをもち、心豊かな生活をおくれるよう、高齢者の学習事業を体系化し、同時に幅広い学習機会を提供する。
【概要】
◆ふれあいアカデミーの実施
◆うるおい塾の実施
◆生涯現役実現講座の実施

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
品川シルバー大学延べ参加人数	人	目標	3,070	7,485	9,322	13,514	17,640	品川シルバー大学延べ参加人数
		実績	2,632	6,296	7,934		令和8年度	
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

取組内容・実績
◆ふれあいアカデミー1年目のふれあいコースでは、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、定員を80名に縮小して実施した。
◆うるおい塾については、書道・体操・パソコンなどの教室を全10回、春期23教室・秋期22教室にて実施した。定員は各教室10名程度に縮小して開催した。
◆生涯現役実現講座では、自分にできる地域貢献とは何かを考える、セカンドライフの道しるべとなることを目的とし、中小企業センターにて全4回の講座を実施した。

指標の達成状況
◆令和2、3年度については、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、感染症対策を講じつつ定員や教室数を縮小して実施した。
◆開講直前のキャンセルや、講座途中での受講辞退等の理由により、目標を下回る結果となった。

必要性・有効性
◆高齢者のいきがい創出や学習機会の提供という観点からも、生涯学習事業を継続する必要性は高い。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	1,399	1,237	0	162	88.40%
役務費	711	342	0	369	48.04%
委託料	1,214	1,016	0	198	83.66%
使用料及び賃借料	2,514	1,551	0	963	61.69%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	9,135	6,822	0	2,313	74.68%
計	14,973	10,966	0	4,007	73.25%

決算額の主な内訳
◆需用費 1,237千円 (開催要項チラシ、事務用品他)
◆委託料 1,016千円 (シルバー大学開講準備委託、いきいきコース講座企画運営委託)
◆使用料及び賃借料 1,551千円 (会場使用料)
◆その他 6,822千円 (講師謝礼他)

効率性
◆シルバー人材センターに開講準備作業の一部を委託し、効率的に事業を実施した。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A	勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	18,070	28,588	10,518	流動資産 0	0	0	0
物件費	4,172	4,155	-17	収入未済	0	0	0
うち委託料	990	1,016	26	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	0	0	0	その他	0	0	0
扶助費	0	0	0	固定資産 P	0	0	0
補助費等	5,921	6,812	891	土地	0	0	0
減価償却費	0	0	0	建物	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	3,909	2,622	-1,287	重要物品	0	0	0
その他	0	0	0	インフラ資産	0	0	0
小計 D	32,072	42,177	10,105	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	1,020	1,726	706
都支出金	5,793	5,946	153	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	賞与引当金	1,020	1,726	706
その他	1,409	1,798	389	その他	0	0	0
小計 E	7,202	7,744	542	固定負債 S	10,664	15,399	4,735
行政収支差額 H=E-D	-24,870	-34,433	-9,563	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	10,664	15,399	4,735
通常収支差額 J=H+I	-24,870	-34,433	-9,563	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0	負債の部合計 T=R+S	11,684	17,125	5,441
特別収入 小計 L	0	0	0	正味財産の部	-11,684	-17,125	-5,441
特別収支差額 M=L-K	0	0	0	正味財産の部 合計 U	-11,684	-17,125	-5,441
当期収支差額 N=J+M	-24,870	-34,433	-9,563	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度：68.5% 令和4年度：74.0%			特微的事項	◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる		
	◆主たる業務を直接区職員が行っているため、行政費用における人件費の割合が高くなっている。				職員賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。		
	◆都支出金には、都補助金(人生100年時代セカンドライフ応援事業補助金)が計上されている。						

6 評価

(1) 所管評価
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、段階的にコロナ禍以前の事業規模に戻していく。
(2) 最終評価
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆課が有する文化センターの稼働率が低い中、他課の有料施設を使用するなど、非効率な状況があるので見直されたい。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	障害者の学習活動支援				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	地域振興費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	生涯学習係

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画	P30	実施計画事業	-
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	昭和58年度 ~	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	社会教育法、日曜サークル青年コース運営要領、日曜サークル自主コース運営要領、日曜サークル成人コース運営要領		

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆区内在住の軽度の知的障害がある区民を対象に、集団生活をととして生きる力・働く力を育て社会生活での自立の一助とする。
①仲間づくり ②社会性の育成 ③余暇の活用 ④生活技術の向上
【概要】
◆日曜サークル青年コース ◆日曜サークル自主コース ◆日曜サークル成人コース

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
日曜サークル延べ参加人数	人	目標	1,116	1,100	1,017	990	990	日曜サークル延べ参加人数
		実績	148	255	681		令和5年度	
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

取組内容・実績  
 ◆青年コースについては、16歳以上30歳未満の方を対象に、グループ活動・趣味講座・宿泊活動など、年間14回の活動を行った。  
 ◆自主コースについては、青年コースに6年以上在籍した方を対象に、外出・宿泊など、グループ活動など、年間13回の活動を行った。  
 ◆成人コースについては、30歳以上の方を対象に、手芸・工芸・調理実習・外出活動・バスハイクなど、年間14回の活動を行った。

指標の達成状況  
 ◆令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、活動規模の縮小や参加を見送る方が多かったため、目標を大幅に下回る結果となった。  
 ◆目標には達しなかったものの、令和4年度より参加者数が回復する傾向が見られた。

必要性・有効性  
 ◆軽度知的障害者が社会性を身につけ、社会生活での自立を促す役割を担っているため、必要性は高い。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	76	72	0	4	95.14%
役務費	289	233	0	56	80.56%
委託料	0	0	0	0	0.00%
使用料及び賃借料	2,050	1,284	0	766	62.64%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	6,109	5,689	0	420	93.12%
計	8,524	7,278	0	1,246	85.38%

決算額の主な内訳  
 ◆使用料及び賃借料 1,284千円(施設入場料、特別活動バス借上げ)  
 ◆その他 5,689千円(スタッフ謝礼他)

効率性  
 ◆障害者への理解と地域貢献への意欲が高いボランティアに運営を委嘱する事によって、効果的に事業を実施した。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A	勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	21,512	13,453	-8,059	流動資産 0	0	0	0
物件費	501	1,672	1,171	収入未済	0	0	0
うち委託料	0	0	0	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	0	0	0	その他	0	0	0
行政扶助費	0	0	0	固定資産 P	0	0	0
補助費等	1,671	5,606	3,935	土地	0	0	0
減価償却費	0	0	0	建物	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	4,746	1,230	-3,516	重要物品	0	0	0
その他	0	0	0	インフラ資産	0	0	0
小計 D	28,430	21,961	-6,469	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
行政収入	0	0	0	流動負債 R	1,214	812	-402
都支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	賞与引当金	1,214	812	-402
その他	0	0	0	その他	0	0	0
小計 E	0	0	0	固定負債 S	13,034	7,186	-5,848
行政収支差額 H=E-D	-28,430	-21,961	6,469	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	13,034	7,186	-5,848
通常収支差額 J=H+I	-28,430	-21,961	6,469	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0	負債の部合計 T=R+S	14,248	7,998	-6,250
特別収入 小計 L	0	0	0	正味財産の部	-14,248	-7,998	6,250
特別収支差額 M=L-K	0	0	0	正味財産の部合計 U	-14,248	-7,998	6,250
当期収支差額 N=J+M	-28,430	-21,961	6,469	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度：92.4% 令和4年度：66.9% ◆補助費等については、新型コロナウイルス感染症の状況緩和に伴い、活動の回数が回復しつつあるため、大きく増加している。			◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。			

6 評価

(1) 所管評価
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆青年コースから自主コースへの移行者が少ない現状であるため、2コース間の交流の機会を設けるなどして、移行しやすい環境を整備する。
(2) 最終評価
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆積極的に事業周知を行うなど、参加人数が目標に達するよう工夫を図る。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	総合区民会館運営費				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	文化コミュニティ施設経費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	文化振興係

1 基本情報

長期基本計画	37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	-
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	平成元年度～	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	品川区立総合区民会館条例、品川区立総合区民会館条例施行規則、(公財)品川文化振興事業団に対する助成に関する条例		

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】 ◆区民への文化・芸術促進事業展開、文化コミュニティ活動の振興および区民相互の文化活動の拠点としての場の提供を目的とし、品川区立総合区民会館(きゅりあん)を運営する。
【内容】 ◆指定管理者による管理運営：多様化する区民の文化・コミュニティ活動に弾力的に対応し、高水準の利用者サービスを行うため、平成18年度から(財)品川文化振興事業団を指定管理者として管理運営を行わせている。(令和2年度に指定管理者候補者選定を行い、引き続き令和3年度から5年間管理運営を行わせる。) ◆総合区民会館の区専有部分・駐車場・共用部分のビル管理委託および光熱水費など、大井町再開発ビル全体を総合的・効率的に管理するため、指定管理者を通して、(株)品川都市整備公社に一括管理委託している。
【施設概要】 ◆敷地面積 約5,055㎡ 延床面積 約41,655㎡ 諸室 ①大ホール1,074席 ②小ホール336席 ③その他(イベントホールなど)

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
利用者満足度	%	目標	90.0	90.0	90.0	95.0	95.0	利用者アンケート(毎年7月の1か月間実施)『満足』『やや満足』の割合
		実績	90.6	95.4	0		令和11年度	
大ホール利用率	%	目標	80.0	80.0	0	85.0	90.0	
		実績	54.6	70.8	0		令和11年度	
小ホール利用率	%	目標	70.0	70.0	70.0	85.0	90.0	
		実績	61.9	66.3	80.4		令和11年度	
イベントホール利用率	%	目標	60.0	70.0	80.0	95.0	95.0	
		実績	63.3	72.2	91.2		令和11年度	

取組内容・実績
◆(公財)品川文化振興事業団を指定管理者として、品川区総合区民会館の管理運営業務を行った。 ◆大井町再開発ビルの管理および警備の委託を行った。 ◆大井町再開発ビル駐車場の管理および警備の委託を行った。 ◆令和5年10月1日のリニューアルオープンに向け、施設の大規模改修および必要となる物品の精査を行った。

指標の達成状況

◆利用者アンケートによる満足は高く評価を得ている。なお、令和4年度は大規模改修中であることからアンケートは実施しなかった。 ◆令和2年度および令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、実績が減少した。 ◆令和4年度の大ホールは大規模改修中(令和4年2月～令和5年9月まで)であることから、利用率の実績は0%であった。 ◆大ホール以外の諸室等は令和4年2月から再開している。新型コロナウイルス感染症の影響による利用控えが続いている傾向はあるが、ホール利用率は高い。
---

必要性・有効性

◆品川区を代表する文化芸術振興施設であり、地域の防災拠点(帰宅困難者受入れ施設等)としても重要な役割を担っている。
---

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	120,816	120,808	0	8	99.99%
役員費	0	0	0	0	0.00%
委託料	260,507	249,568	0	10,939	95.80%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.00%
工事請負費	2,993,200	2,993,000	0	200	99.99%
備品購入費	73,628	72,491	0	1,137	98.46%
負担金補助及び交付金	445,803	431,833	0	13,970	96.87%
その他	0	0	0	0	0.00%
計	3,893,954	3,867,701	0	26,253	99.33%

決算額の主な内訳

- ◆需用費 120,808千円(大規模改修に伴う物品購入他)
- ◆委託料 249,568千円(指定管理経費、管理・警備委託他)
- ◆工事請負費 2,993,000千円(大規模改修工事)
- ◆負担金補助及び交付金 431,833千円(共用部分管理費、光熱水費、計画修繕負担金)

効率性

- ◆品川区の地域文化団体に精通している(公財)品川文化振興事業団が指定管理者として運営することで、効果的に運営している。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	14,588	13,407	-1,181
物件費	196,555	179,030	-17,525
うち委託料	194,358	178,994	-15,364
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	109,451	110,106	655
減価償却費	143,506	143,126	-380
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	3,592	1,342	-2,250
その他	30,737	506,442	475,705
小計 D	498,429	953,453	455,024
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	50,293	47,226	-3,067
小計 E	50,293	47,226	-3,067
行政収支差額 H=E-D	-448,136	-906,227	-458,091
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-448,136	-906,227	-458,091
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-448,136	-906,227	-458,091
特徴的事項	◆人件費比率 令和3年度：3.6% 令和4年度：1.5% ◆行政費用(その他)について、(株)品川都市整備公社が行った大井町再開発ビル全体の工事分担金が計上されており、総合区民会館の休館に合わせ外壁工事等を行ったため昨年度に比べ増加している。		

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	7,892,057	11,259,472	3,367,415
土地	3,547,399	3,547,399	0
建物	2,536,811	2,395,877	-140,934
工作物	0	0	0
重要物品	20,023	26,380	6,357
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	1,787,824	5,289,816	3,501,992
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	7,892,057	11,259,472	3,367,415
流動負債 R	863	864	1
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	863	864	1
その他	0	0	0
固定負債 S	10,072	8,213	-1,859
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	10,072	8,213	-1,859
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	10,935	9,077	-1,858
正味財産の部	7,881,122	11,250,395	3,369,273
正味財産の部合計 U	7,881,122	11,250,395	3,369,273
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	7,892,057	11,259,472	3,367,415
特徴的事項	◆固定資産には、品川区立総合区民会館の建物、土地等が計上されている。		

6 評価

(1) 所管評価

- 【評価結果】
- ◆B 継続する事業
- 【説明】
- ◆総合区民会館の円滑な運営事業を継続する。

(2) 最終評価

- 【評価結果】
- ◆C 改善・見直しする事業
- 【説明】
- ◆コロナ禍で変化した利用者ニーズを的確に捉え、指定管理者と連携しサービス向上に創意工夫を図ることで、利用者の増加に努めるとともに、指定管理料の縮減に努める。



令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	荏原平塚総合区民会館運営費				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	地域振興費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	文化振興係

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成25年度～	関連する個別計画等	品川区文化スポーツ施設長寿化計画
根拠法令要綱	品川区立荏原平塚総合区民会館条例・品川区立荏原平塚総合区民会館条例施行規則、品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例、(公財)品川文化振興事業団に対する助成に関する条例		

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】 ◆区民への文化・芸術およびスポーツ活動の促進事業展開、文化コミュニティ活動の振興および区民相互の文化活動拠点の提供を目的とし、品川区立荏原平塚総合区民会館(スクエア荏原)を運営する。
【内容】 ◆指定管理者による管理運営：条例第12条の規定に基づき、多様化する区民の文化・コミュニティ活動に弾力的に対応し、高水準の利用者サービスを行うため、平成25年度から(公財)品川文化振興事業団を指定管理者として管理運営を行わせている。(令和5年度に指定管理者の更新を行い、引き続き令和9年度までの5年度間管理運営を行わせる。)
【施設概要】 敷地面積 約9,133㎡(区立平塚公園 約724㎡を含む) 延床面積 約8,723.79㎡ ◆諸室 ①ひらつかホール 362席 ②イベントホール 457㎡ ③アリーナ 756㎡ ④その他(会議室・和室・スタジオ・喫茶室)

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
利用者満足度	%	目標	90.0	90.0	90.0	95.0	95.0	利用者アンケート(毎年2～3月の1か月間実施)『満足』『やや満足』の割合
		実績	96.0	98.6	89.8		令和11年度	
ひらつかホール利用率	%	目標	70.0	70.0	80.0	90.0	95.0	利用件数/(利用可能回数-利用制限数)
		実績	48.7	73.8	88.0		令和11年度	
イベントホール利用率	%	目標	70.0	70.0	70.0	90.0	95.0	利用件数/(利用可能回数-利用制限数)
		実績	59.7	68.4	85.3		令和11年度	
アリーナ利用率	%	目標	90.0	90.0	90.0	100.0	100.0	利用件数/(利用可能回数-利用制限数)
		実績	96.8	99.4	100.0		令和11年度	

**取組内容・実績**  
 ◆区民避難所として指定されており地域の防災拠点であることから、防災訓練を年に2回実施するとともに、同一敷地内の平塚すこやか園と年に1度、合同防災訓練を実施している。また、近隣3町会とともに「避難所連絡会議」を開催し、毎年12月に避難所訓練を実施している。  
 ◆令和4年度は施設の適切な管理運営のため、以下の改修等を実施した。  
 ①ひらつかホールプロジェクター更新、②1～2階 照明LED化実施、③館内にフリーWi-Fi導入、④令和5年度からの指定管理者を公募により選定

指標の達成状況

◆施設利用率について、令和2年度および令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の感染拡大による休館や利用人数制限の影響で、実績が減少していたが、令和4年度は若干回復した。(前年度から+7.9ポイント)  
 ◆利用者アンケートによる満足度は高く評価を得ている。令和4年度利用者満足度が目標に達していないが、利用は回復したものの(有効回答数は前年度比180%増)新型コロナウイルス感染拡大防止のため、飲食・消毒・空調等に制限を設けていたため、利用環境に対するものと推測する。

必要性・有効性

◆荏原地区を代表する文化芸術振興施設として周辺町会のまつり会場として活用される等、地域とともに歩み、令和5年度に開設10年目を迎える。  
 ◆地域の防災拠点(区民避難所)としても重要な役割を担っている。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	31,400	30,995	0	405	98.71%
役務費	20	20	0	0	100.00%
委託料	143,318	135,814	0	7,504	94.76%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.00%
工事請負費	65,340	58,560	0	6,780	89.62%
備品購入費	6,209	5,764	0	445	92.83%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	40	38	0	2	95.00%
計	246,327	231,191	0	15,136	93.86%

決算額の主な内訳

◆委託料 135,814千円(指定管理経費、施設管理運営委託、ひらつかホールプロジェクター等設置委託、LED化工事監理業務委託)  
 ◆工事請負費 58,560千円(LED化工事、東面カーテンウォールガラス改修工事他)

効率性

◆品川区の地域文化団体に精通している(公財)品川文化振興事業団が指定管理者として運営することで効果的に運営した。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	4,302	10,090	5,788
物件費	154,424	164,182	9,758
うち委託料	132,281	133,166	885
維持補修費	408	4,235	3,827
扶助費	0	0	0
補助費等	0	38	38
減価償却費	58,783	58,783	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	1,045	968	-77
その他	4,046	14,263	10,217
小計 D	223,008	252,559	29,551
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	549	1,009	460
小計 E	549	1,009	460
行政収支差額 H=E-D	-222,459	-251,550	-29,091
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-222,459	-251,550	-29,091
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-222,459	-251,550	-29,091
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度：2.4% 令和4年度：4.4% ◆令和4年度、照明のLED化工事を行ったため、行政費用における維持補修費・その他が大きく増加している。		

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	6,216,210	6,205,901	-10,309
土地	3,800,113	3,800,113	0
建物	2,410,097	2,394,024	-16,073
工作物	0	0	0
重要物品	6,000	11,764	5,764
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	6,216,210	6,205,901	-10,309
流動負債 R	243	609	366
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	243	609	366
その他	0	0	0
固定負債 S	2,962	6,160	3,198
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	2,962	6,160	3,198
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	3,205	6,769	3,564
正味財産の部	6,213,005	6,199,132	-13,873
正味財産の部 合計 U	6,213,005	6,199,132	-13,873
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	6,216,210	6,205,901	-10,309
特微的事項	◆固定資産には、荏原平塚総合区民会館の建物、土地等が計上されている。		

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果】  
 ◆B 継続する事業  
 【説明】  
 ◆荏原平塚総合区民会館の円滑な運営を継続する。

(2) 最終評価

【評価結果】  
 ◆C 改善・見直しする事業  
 【説明】  
 ◆コロナ禍で変化した利用者ニーズを的確に捉え、指定管理者と連携しサービス向上に創意工夫を図ることで、利用者の増加に努めるとともに、指定管理料の縮減に努める。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	区民活動交流施設運営費				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	文化コミュニティ施設経費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	文化振興係

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	-
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	平成23年度 ~	関連する個別計画等	品川区文化スポーツ施設長寿化計画
根拠法令要綱	品川区立区民活動交流施設条例、品川区立区民活動交流施設条例施行規則、品川区立区民活動交流施設管理運営要綱、品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例		

2 事業の目的・概要

【目的】
◆既存の旧八潮南小学校跡を区民活動交流施設（こみゆにていぶらざ八潮）として有効活用し、地域住民のみならず、多世代にわたる幅広い区民が文化芸術・スポーツやレクリエーション活動および地域活動の推進ならびに協働等の振興を通じ、ふれあいや交流を促進することで八潮地域の活性化を図る。
【施設概要】
◆文化観光課エリア 地域交流室、多目的室、講習室、講習和室、パソコン講習室、音楽室、美術工芸室、健康増進室、託児室、スポーツ室、グラウンド
◆地域活動課エリア 活動拠点室、交流スペース

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
利用件数	件	目標	14,000	17,000	18,000	18,000	18,000	貸室における利用件数
		実績	6,331	7,785	9,052		令和11年度	
利用率	%	目標	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	貸室における利用率
		実績	44.41	49.48	49.53		令和11年度	
		目標						
		実績						

【取組内容・実績】
◆諸室の貸出や改修工事などの施設管理・運営業務を行った。
◆令和3・4年度に施設の照明のLED化工事を行った。
◆館内の空調を全館空調から個別空調に更新した。
◆令和4年2月から令和5年12月まで総合区民会館の大規模改修工事により（公財）品川文化振興事業団の仮事務所が移転していた。
◆令和4年9月から令和5年9月中旬（予定）まで品川歴史館の大規模改修工事により仮事務室が移転している。

【指標の達成状況】

◆令和元年度まで施設の利用件数は着実に伸びていたが、令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で貸出の休止や制限を余儀なくされた。
◆令和4年度は概ね通常通り実施することができ回復傾向にあり、令和5年度はコロナ禍以前の水準まで戻ることを見込んでいる。
◆引き続き利用者の増加に努める。

【必要性・有効性】

◆八潮地域における活動拠点として環境の充実を図ることで、区民のサークル活動が活発に展開され、にぎわい創出するために必要不可欠である。
◆施設規模が大きく、貸館業務のみならず協働の活動拠点室としての役割や防災拠点であることから新しいタイプの複合施設である。区が一定の関与を行いつつも民間のノウハウを活かしながら施設管理・連絡調整を行っていく必要がある。

4 予算・決算 (概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	25,229	24,400	0	829	96.71%
役務費	911	842	0	69	92.39%
委託料	66,915	65,598	0	1,317	98.03%
使用料及び賃借料	2,191	2,159	0	32	98.53%
工事請負費	205,758	205,509	0	249	99.88%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	0	0	0	0	0.00%
計	301,004	298,507	0	2,497	99.17%

【決算額の主な内訳】

- ◆工事請負費 205,509千円（照明LED化工事、全館空調設備更新工事）
- ◆委託料 65,598千円（照明LED化工事監理委託、全館空調設備更新工事監理委託、窓口受付および管理運営業務委託）
- ◆需用費 24,400千円（光熱水費他）

【効率性】

- ◆施設の経年劣化が激しく今ある予算では対応しきれないことから、予算全体を見直す必要性がある。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	12,047	7,567	-4,480
物件費	79,195	85,168	5,973
うち委託料	54,796	57,952	3,156
維持補修費	3,833	1,942	-1,891
扶助費	0	0	0
補助費等	0	0	0
減価償却費	29,737	30,691	954
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	2,927	726	-2,201
その他	11,264	171,258	159,994
小計 D	139,003	297,352	158,349
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	2,307	2,987	680
その他	900	1,798	898
小計 E	3,207	4,785	1,578
行政収支差額 H=E-D	-135,796	-292,567	-156,771
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-135,796	-292,567	-156,771
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-135,796	-292,567	-156,771

- 【特徴的事項】
- ◆人件費比率 令和3年度：10.8% 令和4年度：2.8%
  - ◆施設管理等の全てを委託により実施しているため、行政費用における物件費（委託料）の割合が高くなっている。
  - ◆全館空調更新工事、照明LED化工事を行ったため、行政費用におけるその他（投資的経費）の割合が令和3年度に比べ令和4年度が高くなっている。

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	4,946,470	4,951,079	4,609
土地	4,548,790	4,548,790	0
建物	391,650	402,285	10,635
工作物	0	0	0
重要物品	1,190	4	-1,186
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	4,840	0	-4,840
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	4,946,470	4,951,079	4,609
流動負債 R	680	457	-223
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	680	457	-223
その他	0	0	0
固定負債 S	8,294	4,620	-3,674
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	8,294	4,620	-3,674
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	8,974	5,077	-3,897
正味財産の部	4,937,496	4,946,002	8,506
正味財産の部合計 U	4,937,496	4,946,002	8,506
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	4,946,470	4,951,079	4,609

- 【特徴的事項】
- ◆固定資産には、区民活動交流施設（こみゆにていぶらざ八潮）の建物、土地等が計上されている。

6 評価

(1) 所管評価

- 【評価結果】
- ◆C 改善・見直しする事業
- 【説明】
- ◆事業規模は現状維持とするが、施設管理・運営形態は見直しを検討する必要がある。

(2) 最終評価

- 【評価結果】
- ◆C 改善・見直しする事業
- 【説明】
- ◆指標に掲げる利用人数等について目標値を達成するよう、創意工夫を凝らした施設管理および運営に努める。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	文化センター運営費				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	文化コミュニティ施設経費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	文化振興係

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	-
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	昭和47年度～	関連する個別計画等	品川区文化スポーツ施設長寿命化計画
根拠法令要綱	品川区立文化センター条例、品川区立文化センター条例施行規則、品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例		

2 事業の目的・概要

【目的】
◆文化センター（5館：五反田、荏原、東品川、旗の台、南大井）を円滑に維持運営し、区民に文化・スポーツの場を提供する。
【施設概要】
◆五反田：講習室、会議室、音楽ホール、楽屋、スタジオ、託児室、プラネタリウム
◆荏原：講習室、料理講習室、レクリエーションホール、会議室、グループ室、大ホール、温水プール
◆東品川：講習室、会議室、美術工芸室、視聴覚室、レクリエーションホール、スポーツ室、託児室、グループ室
◆旗の台：会議室、レクリエーションホール、スポーツ室、グループ室
◆南大井：講習室、レクリエーションホール、美術工芸室、スポーツ室、託児室、グループ室

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
貸室利用件数	件	目標	51,000	56,000	54,000	54,000	56,000	全文化センターの貸室利用件数
		実績	17,368	27,412	32,705		令和11年度	
貸室利用率	%	目標	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	全文化センターの貸室利用率
		実績	34.1	48.8	60.1		令和11年度	
プラネタリウム一般投影・団体投影入場者数	人	目標	14,100	11,000	46,600	46,600	46,600	五反田文化センタープラネタリウムにおける一般投影および団体投影の入場者数
		実績	4,899	9,362	13,749		令和11年度	
水泳教室参加者数	人	目標	2,300	1,500	1,700	1,700	2,000	荏原文化センター水泳教室における参加者数
		実績	655	1,129	1,421		令和11年度	

取組内容・実績
◆貸室等の貸出や改修工事など施設管理・運営業務を行った。
◆荏原文化センターの温水プール一般開放および水泳教室では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため人数を制限し実施した。
◆五反田文化センターにおいて、照明LED化工事を令和4・5年度に順次行う。
◆荏原文化センターの大ホールでは、調光操作卓の更新工事を行うため、利用を1ヶ月間休止した。

指標の達成状況

◆各施設の利用率は令和元年度までは高く推移していたが、令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため貸出の休止や制限、事業の中止を余儀なくされた。令和4年度は概ね通常通り実施することができ、回復傾向にある。
◆施設によっては老朽化が激しく、利用者満足度を下げているため早急に改修工事を進める必要がある。
◆引き続き利用者の増加・利用者満足度向上に努める。

必要性・有効性

◆地域密着型の施設として利用者団体協議会、5館の連携を深め機能強化を図る必要がある。
◆区民の文化、スポーツ、レクリエーション等の活動の促進を図る場を提供する必要があり、施設の維持は必要不可欠である。
◆五反田文化センターのプラネタリウムは安価で誰もが気軽に天文に触れることができるほか、定期的にイベントを実施することで天体や宇宙に関する興味・関心を高める機会を創出でき有効である。
◆荏原文化センターの温水プール開放・水泳教室では水中運動を通して、区民の健康維持・増進を図り、利用者間のふれあいを深めるため必要不可欠である。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	104,806	103,550	0	1,256	98.80%
役務費	3,246	2,768	0	478	85.28%
委託料	298,283	290,225	0	8,058	97.30%
使用料及び賃借料	18,334	17,570	0	764	95.84%
工事請負費	115,800	92,178	0	23,622	79.60%
備品購入費	2,504	1,563	0	941	62.43%
負担金補助及び交付金	54	15	0	39	27.83%
その他	3,496	3,088	0	408	88.34%
計	546,523	510,958	0	35,565	93.49%

決算額の主な内訳

◆委託料 290,225千円 (窓口受付業務委託、設備管理・清掃業務委託、プラネタリウム事業等運営委託、温水プール監視業務委託他)
◆需用費 103,550千円 (光熱水費他)
◆工事請負費 92,178千円 (照明LED化工事、照明調光操作卓更新工事、駐車場門扉設置および可動式バスケットゴール交換工事他)
◆使用料及び賃借料 17,570千円 (土地使用料、便所防臭装置賃借、スポーツ室空調設備賃借他)
◆各施設の委託業務については文化観光課でまとめて契約することで、委託料の縮減に努めている。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	84,328	77,310	-7,018
物件費	372,641	403,883	31,242
うち委託料	278,179	282,712	4,533
維持補修費	16,124	15,081	-1,043
扶助費	0	0	0
補助費等	3,522	3,050	-472
減価償却費	94,464	94,288	-176
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	13,427	6,334	-7,093
その他	248,087	50,423	-197,664
小計 D	832,593	650,369	-182,224
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	55,228	75,755	20,527
その他	857	1,161	304
小計 E	56,085	76,916	20,831
行政収支差額 H=E-D	-776,508	-573,453	203,055
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-776,508	-573,453	203,055
特別費用 小計 K	0	4,840	4,840
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	-4,840	-4,840
当期収支差額 N=J+M	-776,508	-578,293	198,215
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度：11.7% 令和4年度：12.9% ◆施設の維持管理は委託により実施しているため、行政費用における物件費(委託料)の割合が高くなっている。		

②貸借対照表 (千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	6,772,914	6,712,772	-60,142
土地	4,230,821	4,230,821	0
建物	2,536,683	2,481,178	-55,505
工作物	431	258	-173
重要物品	4,979	515	-4,464
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	6,772,914	6,712,772	-60,142
流動負債 R	4,759	4,721	-38
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	4,759	4,721	-38
その他	0	0	0
固定負債 S	31,993	27,718	-4,275
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	31,993	27,718	-4,275
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	36,752	32,439	-4,313
正味財産の部	6,736,162	6,680,333	-55,829
正味財産の部 合計 U	6,736,162	6,680,333	-55,829
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	6,772,914	6,712,772	-60,142
特微的事項	◆固定資産には、文化センターの建物・土地等が計上されている(東品川文化センターの土地を除く)。		

6 評価

(1) 所管評価
【評価結果】
◆B 継続する事業
【説明】
◆基本的な事業規模は現状維持とする。
(2) 最終評価
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆指標に掲げる利用人数等について目標値を達成するよう、創意工夫を凝らした施設管理および運営に努める。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	歴史館運営費				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	文化コミュニティ施設経費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	文化観光課	担当係	品川歴史館

1 基本情報

長期基本計画	P41	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画	P39	実施計画事業	品川区の歴史の継承と魅力の発信
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	昭和60年度 ~	関連する個別計画等	品川歴史館リニューアル基本計画
根拠法令要綱	品川区立品川歴史館条例、品川区立品川歴史館条例施行規則、品川区立品川歴史館専門委員設置要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要	
【目的】	◆品川区にかかわる歴史資料を収集・保管・展示し、区民の教養の向上や学術および文化の発展に寄与する。
【事業概要】	◆品川歴史館の維持管理を行い、展示観覧者や貸出施設利用者など入館者への対応を行う。 ◆品川歴史館の常設展や特別展、企画展、コーナー展など各種の展示を行う。 ◆品川区にかかわる歴史資料を収集・保管し、調査研究を行う。 ◆歴史講座、古文書講座などの講座・講演会を実施する。 ◆本館および茶室の大規模改修工事を行うとともに展示内容を全面リニューアルする。 ◆大規模改修工事に伴う休館期間中、区内各地域（品川・大崎・大井・荏原・八潮）で巡回展を実施する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
観覧者数	人	目標	15,000	15,000	3,000	0	20,000	年間の展示観覧者数（観覧料免除者含む）
		実績	9,014	12,801	3,236		令和6年度	
貸出施設利用者数	人	目標	6,000	6,000	1,500	0	10,000	貸出施設（講堂・書院・茶室）の年間利用者数
		実績	2,122	2,884	279		令和6年度	
講座受講者数	人	目標	120	130	120	90	150	歴史館で開催する各種講座の受講者延べ人数
		実績	0	47	269		令和6年度	
		目標						
		実績						

取組内容・実績	
◆	休館前最後の展示となるコーナー展「品川歴史館をふりかえる～大規模改修に向けて～」を開催し、37年間の歴史館の軌跡を紹介した。
◆	大規模改修工事に伴う休館期間に入り、収蔵資料約50,000点、図書約20,000冊を梱包・搬出し、外部専門倉庫へ預入を行った。
◆	工事について、7月に茶室の改修工事、10月に本館の大規模改修工事に着工した。
◆	常設展示をはじめとした展示の全面リニューアルについて、6月より展示製作に着手した。
◆	休館中、博物館活動を幅広く区民の方に紹介し、あわせて区内各地域の風景の移り変わりを身近な場所で見ただけのよう、区内公共施設を会場とした巡回展を開催した。荏原地区は荏原文化センター（令和4年10～11月）、品川地区は品川図書館（令和5年2～3月）で開催し、そのほか庁舎の3階渡り廊下（令和4年12月）で庁舎の歴史を紹介する展示を行った。

指標の達成状況	
◆	令和2年2月に歴史講座の中止を余儀なくされたのをはじめとして、令和2年4～5月および令和3年4～5月には全面休館するなど、令和元年度の終わりから新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて断続的に事業を実施できない状況が発生し、観覧者数・施設利用者数において目標値に達しない状況が続いている。
◆	講座についても令和2年度は全て中止、令和3年度も大部分を中止したことから、目標値を達成できない状況が続いたが、令和4年度には古文書講座、歴史講座を開催し、多くの参加者を集めることができた。
◆	令和4年度は7月1日から大規模改修工事に伴う休館に入ったことから開館期間が短く観覧者数は少なかったが、休館前最後のコーナー展の観覧者数は会期82日間で3,623人（令和3年度分も含む）と、平日も混雑するなど盛況であった。

必要性・有効性	
◆	品川区にかかわる歴史資料の収集・保存・公開・調査研究を担う施設として必要不可欠である。
◆	令和4年度の巡回展は、身近な施設で実施することで、区民が地域の歴史を知る機会を持つという点で非常に有効であった。
◆	子どもをはじめとした区民や区外の方に対し、品川区の歴史と文化を伝える場として、わかりやすい展示の実現など、新しい文化観光・交流拠点としての整備が求められている。

4 予算・決算（概要）

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	12,376	8,915	0	3,461	72.03%
役務費	106,673	48,556	0	58,117	45.52%
委託料	118,348	115,315	0	3,033	97.44%
使用料及び賃借料	117	106	0	11	90.88%
工事請負費	406,613	404,080	0	2,533	99.38%
備品購入費	500	0	0	500	0.00%
負担金補助及び交付金	100	75	0	25	75.00%
その他	3,515	1,391	0	2,124	39.56%
計	648,242	578,437	0	69,805	89.23%

決算額の主な内訳	
◆	工事請負費 404,080千円（品川歴史館大規模改修工事他）
◆	委託料 115,315千円（展示リニューアル・設置業務委託、大規模改修工事監理業務委託他）
◆	役務費 48,556千円（収蔵資料等運搬保管業務委託、粗大ごみ収集運搬処分他）
◆	需用費 8,915千円（光熱水費、消耗品購入他）

効率性	
◆	執行率は89%と高く、適正かつ効率的に執行している。
◆	役務費は執行率が低いが、収蔵資料等運搬保管業務委託において作業内容の精査により効率的な執行につなげることができた。
◆	歴史館紀要の印刷部数を令和3年度分より見直し、適正な在庫管理を行っている。
◆	講座受講者数が減少傾向にあったことから、歴史講座と内容が類似していた区史啓発講座を歴史講座に統合し一本化した。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A	勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	36,012	35,104	-908	流動資産 0	0	0	0
物件費	62,596	141,776	79,180	収入未済	0	0	0
うち委託料	37,902	84,140	46,238	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	1,825	1,329	-496	その他	0	0	0
扶助費	0	0	0	固定資産 P	1,577,298	1,562,401	-14,897
補助費等	2,576	1,406	-1,170	土地	1,447,450	1,447,450	0
減価償却費	9,119	8,740	-379	建物	95,783	88,415	-7,368
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	4,860	4,590	-270
賞与退職引当金繰入額	8,902	3,619	-5,283	重要物品	23,805	21,946	-1,859
その他	0	908	908	インフラ資産	0	0	0
小計 D	121,030	192,882	71,852	建設仮勘定	5,400	0	-5,400
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	1,577,298	1,562,401	-14,897
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	2,159	2,365	206
都支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	1,407	237	-1,170	賞与引当金	2,159	2,365	206
その他	1,435	1,332	-103	その他	0	0	0
小計 E	2,842	1,569	-1,273	固定負債 S	24,883	21,558	-3,325
行政収支差額 H=E-D	-118,188	-191,313	-73,125	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	24,883	21,558	-3,325
通常収支差額 J=H+I	-118,188	-191,313	-73,125	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	758	758	負債の部合計 T=R+S	27,042	23,923	-3,119
特別収入 小計 L	0	0	0	正味財産の部	1,550,256	1,538,478	-11,778
特別収支差額 M=L-K	0	-758	-758	正味財産の部 合計 U	1,550,256	1,538,478	-11,778
当期収支差額 N=J+M	-118,188	-192,071	-73,883	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	1,577,298	1,562,401	-14,897
特徴的事項	◆人件費比率 令和3年度：37.1% 令和4年度：20.1% ◆令和4年7月から大規模改修工事に伴う休館に入ったため、使用料等の行政収入が大幅減となった。 ◆大規模改修工事のための資料移転等準備を行ったため、物件費が大幅増となった。			◆固定資産には、品川歴史館の建物、土地等が計上されているほか、大規模改修中の工事費等が建設仮勘定として計上されている。			

6 評価

(1) 所管評価	
【評価結果】	◆B 継続する事業
【説明】	◆歴史館リニューアルを計画どおりに進め、新しい文化観光・交流拠点として整備する。
(2) 最終評価	
【評価結果】	◆C 改善・見直しする事業
【説明】	◆令和6年度のリニューアルオープンに向け、着実に準備を進めるとともに、指標に掲げる利用人数等について目標値を達成するよう、創意工夫を凝らした施設管理および運営に努める。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	地域スポーツ支援				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	スポーツ推進費		事業	地域振興費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係
			地域スポーツ推進係		

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画	P32	実施計画事業	オリンピック・パラリンピックを契機とする文化スポーツ活動の推進
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	昭和57年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	スポーツ基本法、第3期スポーツ基本計画		

2 事業の目的・概要

【目的】	◆区民の生涯にわたる自主的なスポーツ・レクリエーション活動の環境を整備し、地域スポーツの推進を図る。
【概要】	◆地域が主体となり運営する区内の地域スポーツクラブにおいて各種スポーツ教室やイベント（スポーツ大会等）を実施し、地域でのスポーツ活動を推進し、誰でもスポーツに参加できる環境を整備する。 ◆障害者スポーツチャレンジデーやユニバーサルスポーツフェスタ等の実施により、障害のある人もない人も気軽にスポーツに親しむことができるスポーツを通じた地域共生社会の実現を目指す。 ◆令和3年度に誕生した区をホームタウンとするプロスポーツチームと連携し、小学生を対象としたスポーツ教室を実施し、もっと上手になりたいという「する」スポーツの推進とプロスポーツを観戦したいという「みる」スポーツの推進の相乗効果を図る。 ◆現在、区民スポーツ大会の種目の1つとして実施しているマラソン大会について、観光やシティプロモーションの要素を加えたコースの見直し等を行い、シティマラソン大会としてリニューアルを図る。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
スポーツ教室・イベント実施数	回	目標	85	82	82	83	88	各地域スポーツクラブにおける区委託事業のスポーツ教室・イベント数
		実績	34	37	75		令和11年度	
障害者スポーツ事業実施回数(延)	回	目標	18	18	28	28	28	各年度に実施する事業の延べ回数
		実績	6	8	23		令和11年度	
ホームゲーム開催数	回	目標		3	11	12	20	区立のアリーナで開催されるプロスポーツのホームゲームの年間試合数
		実績		3	11		令和11年度	
シティマラソン大会実施回数	回	目標					1	シティマラソン大会の実施回数
		実績					令和6年度	

**取組内容・実績**  
 ◆新型コロナウイルス感染症による施設の利用制限がなくなり、ほとんどの事業が予定どおり開催できたことで、各種スポーツ教室等の参加者は、昨年度と比べて2倍以上に増加し、延べ13,933人の参加があった。  
 ◆パラスポーツ体験イベント（障害者スポーツチャレンジデー等）や知的障害のある方を対象としたスポーツ教室（障害者フライングディスク教室等）に加え、令和4年度より区内の各団体等にポッチャの講師を派遣する「ポッチャ出前体験教室」を開始した。  
 ◆区立アリーナでプロスポーツの公式戦を11試合（フットサル3試合、バスケットボール8試合）開催した。また、令和4年度よりプロスポーツチームと連携して、小学生を対象としたプロスポーツ選手による教室を計10回実施した。  
 ◆シティマラソン大会の令和6年度の開催を目指し、開催準備委員会を設置し、コース案の選定等を行い、道路使用に当たっての警察交渉を開始した。また、機運醸成イベントの一環として、初心者向けのランニング教室を開催した。

**指標の達成状況**  
 ◆令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、地域スポーツクラブ事業の半数以上が中止となったが、令和4年度については、ほとんどの事業を中止することなく開催することができたため、実施回数は大幅に増加した。  
 ◆令和4年度は3年ぶりに障害者スポーツチャレンジデーなどを含めた各種事業を再開することができた。新規事業のポッチャ出前体験教室は予定回数を超える申込みがあり、利用者からの人気も高かったため、今後は回数を全10回から15回に増やして実施していく。  
 ◆区立アリーナで開催したプロスポーツ公式戦は11試合で合計約3,200人の方が観戦した。観戦者の中にはリピーターも多く、地域での活動を通じて、知名度も向上しており、「みる」スポーツの推進に寄与している。  
 ◆令和4年度は準備委員会を開催し、大会コンセプトの検討やコース案の選定等を行い、道路使用に当たっての警察交渉を開始した。今後は実行委員会を立ち上げ、大会開催に係る計画の策定や警察等関係機関との調整など、開催に向けた具体的な準備を進めていく。

**必要性・有効性**  
 ◆年間を通じて身近な地域でスポーツをする機会を提供しており、地域に根付いた事業も多くある。スポーツを通じて、人と人とのつながりをより強くし、地域の活性化を図るうえで事業の有効性は高い。  
 ◆東京2020大会を契機にポッチャ競技をはじめとしたパラスポーツへの関心が高まっており、パラスポーツ体験イベントなどを通じてパラスポーツに親しむ・知る機会を提供することが必要である。  
 ◆令和3年度に策定した品川区スポーツ推進計画において、「みる」スポーツの視点を加えた取組を推進することとしており、プロスポーツチームとの連携は有効性が高いが、公式戦を行う会場の確保等が課題となっている。  
 ◆シティマラソン大会を通じて区の魅力を区内外に広く発信することで、区民としてのシビックプライドの醸成やシティプロモーションの推進に期待できる。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	4,850	3,490	0	1,360	71.96%
役務費	290	163	0	127	56.11%
委託料	28,107	25,528	0	2,579	90.83%
使用料及び賃借料	565	286	0	279	50.64%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	260	175	0	85	67.31%
その他	9,629	5,768	0	3,861	59.90%
計	43,701	35,410	0	8,291	81.03%

**決算額の主な内訳**  
 ◆委託料 25,528千円（障害者スポーツチャレンジデー運営委託、品川区シティマラソン大会実施計画等業務委託他）  
 ◆その他 5,768千円（品川区スポーツ推進委員の報酬他）

効率性

◆新型コロナウイルス感染症の影響による事業の中止がほとんどなくなったため、委託料の不用額が大幅に減少した。また、全体の執行率も昨年度の63.29%から17.74ポイント上昇し、81.03%となった。  
 ◆令和4年度の組織改正により、旧オリンピック・パラリンピック準備課と統合したことに伴い、両課で実施していたパラスポーツ啓発事業について、類似事業の内容を見直し、事業の整理等を行った。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	24,829	35,081	10,252
物件費	10,786	30,011	19,225
うち委託料	8,839	25,528	16,689
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	262	966	704
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	4,332	1,810	-2,522
その他	0	0	0
小計 D	40,209	67,868	27,659
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	281	420	139
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	281	420	139
行政収支差額 H=E-D	-39,928	-67,448	-27,520
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-39,928	-67,448	-27,520
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	1,011	1,011
特別収支差額 M=L-K	0	1,011	1,011
当期収支差額 N=J+M	-39,928	-66,437	-26,509

**特徴的事項**  
 ◆人件費比率 令和3年度：72.5% 令和4年度：54.4%  
 ◆令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止（一部中止を含む。）となった事業が多かったが、令和4年度については、3年ぶりに開催した障害者スポーツチャレンジデーをはじめ、ほとんどの事業を実施することができたため、物件費（委託料）の支出が令和3年度比で約3倍に増加した。

②貸借対照表 (千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 Q	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	0	0	0
流動負債 R	1,118	1,810	692
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	1,118	1,810	692
その他	0	0	0
固定負債 S	10,553	16,916	6,363
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	10,553	16,916	6,363
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	11,671	18,726	7,055
正味財産の部	-11,671	-18,726	-7,055
正味財産の部合計 U	-11,671	-18,726	-7,055
負債及び正味財産の部合計 V=U	0	0	0

**特徴的事項**  
 ◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

<b>(1) 所管評価</b>
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆品川区スポーツ推進計画の基本理念である「スポーツの力でつなぐ みんなの笑顔が輝くまち しながわ」の実現に向け、これまで以上に地域スポーツクラブや区内のスポーツ活動団体等と連携し、子どもから高齢者まで、障害の有無にかかわらず、誰もが気軽にスポーツに親しみ、楽しめる環境づくりに取り組むとともに、実施内容の精査を図る。
<b>(2) 最終評価</b>
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆品川区スポーツ推進計画に則り、引き続き誰でもスポーツに参加できる環境の整備を推進する。 ◆シティマラソン大会について、令和6年度の開催に向け、関係機関との調整など準備を着実に進める。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	地域スポーツ施設開放				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	スポーツ推進費		事業	地域スポーツ等推進経費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係
			地域スポーツ推進係		

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	昭和29年度～	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	スポーツ基本法、第3期スポーツ基本計画		

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆区民の地域でのスポーツ活動を促進するため、区立学校等の体育館・校庭・温水プール等の施設を開放する。
【概要】
◆47校（区立小学校31校・中学校9校・義務教育学校6校・その他1校）の体育館・校庭・教室を開放する。
◆10校（区立小学校7校・中学校3校）の校庭・屋外プールについて、種目を指定（テニス・学校プール夏季一般開放）した上で開放する。
◆5校（区立中学校1校・義務教育学校4校）の温水プールを開放する。
◆八潮公園多目的広場を身近な地域で屋外スポーツを楽しめるよう開放する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
学校施設の開放利用人数	人	目標	536,250	707,000	970,000	970,000	1,000,000	学校施設の開放における利用延べ人数
		実績	518,589	688,089	965,247		令和11年度	
学校スポーツ開放利用人数	人	目標	1,600	3,200	3,900	3,900	4,000	学校スポーツ開放における利用延べ人数
		実績	716	1,350	3,679		令和11年度	
学校温水プール開放利用人数	人	目標	106,000	176,000	236,000	236,000	250,000	学校温水プール開放における利用延べ人数
		実績	84,234	126,113	157,750		令和11年度	
八潮公園多目的広場の開放利用人数	人	目標	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000	八潮公園多目的広場の開放における利用延べ人数
		実績	11,842	10,455	13,040		令和11年度	

取組内容・実績
◆学校施設の予約に当たっては、区内17地区で学校施設の利用調整会議・ブロック会議が毎月開催され、各地域スポーツクラブおよびスポーツ推進委員が運営を行っている。
◆学校等にシルバー人材センター等への委託による施設管理員を配置し、施設開放の管理業務を行った。
◆令和2年度より新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策として、施設利用時の感染症対策チェックシートの記入・検温等を実施するとともに、学校温水プールについては、1回当たりの利用人数を60人とする入場制限を実施した。

指標の達成状況
◆令和2・3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により施設の利用制限等を行い、利用人数が大幅に減少したが、令和4年度はすべての施設で前年度を超える利用人数となり、総利用人数は前年度から約1.4倍に増加した。
◆学校温水プールについては、令和4年度も人数制限を実施した影響により、令和元年度以前の水準には戻り切っていない。

必要性・有効性
◆区内全域で、身近な地域でスポーツをする機会を提供しており、区民の自主的なスポーツ活動の促進に大きく寄与している。
◆利用調整会議・ブロック会議は、単なる施設の予約だけでなく、地域で行うスポーツ教室等の検討・周知の場にもなっており、各地域スポーツクラブの活動を拡げていく上でも重要な役割を担っている。

4 予算・決算 (概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	9,167	6,012	0	3,155	65.58%
役務費	672	424	0	248	63.17%
委託料	304,526	300,523	0	4,003	98.69%
使用料及び賃借料	5,019	4,955	0	64	98.72%
工事請負費	1,000	0	0	1,000	0.00%
備品購入費	6,407	5,360	0	1,047	83.66%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	180	133	0	47	73.78%
計	326,971	317,407	0	9,564	97.07%

決算額の主な内訳
◆委託料 300,523千円（学校施設開放・温水プール管理業務委託他）
◆需用費 6,012千円（学校施設等開放用消耗品・スポーツ用品他）

効率性
◆執行率は97%超と高くなっているが、最低賃金の上昇等により、学校等施設開放管理業務に係る人件費は増加傾向にあり、委託料が占める割合は全体の約94.6%となっている。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A	勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	16,168	11,600	-4,568	流動資産 0	0	0	0
物件費	272,410	317,123	44,713	収入未済	0	0	0
うち委託料	262,422	300,523	38,101	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	0	99	99	その他	0	0	0
扶助費	0	0	0	固定資産 P	1,841	0	-1,841
補助費等	510	185	-325	土地	0	0	0
減価償却費	262	0	-262	建物	1,841	0	-1,841
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	3,466	682	-2,784	重要物品	0	0	0
その他	0	0	0	インフラ資産	0	0	0
小計 D	292,816	329,689	36,873	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	1,841	0	-1,841
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	895	682	-213
都支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	38,145	49,214	11,069	賞与引当金	895	682	-213
その他	185	265	80	その他	0	0	0
小計 E	38,330	49,479	11,149	固定負債 S	8,442	6,401	-2,041
行政収支差額 H=E-D	-254,486	-280,210	-25,724	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	8,442	6,401	-2,041
通常収支差額 J=H+I	-254,486	-280,210	-25,724	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	1,841	1,841	負債の部合計 T=R+S	9,337	7,083	-2,254
特別収入 小計 L	0	383	383	正味財産の部	-7,496	-7,083	413
特別収支差額 M=L-K	0	-1,458	-1,458	正味財産の部 合計 U	-7,496	-7,083	413
当期収支差額 N=J+M	-254,486	-281,668	-27,182	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	1,841	0	-1,841
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度：6.7% 令和4年度：3.7% ◆令和4年度は、施設を休止することなく開放することができたため、学校施設等管理業務に係る物件費（委託料）が増加した。また、通常どおり施設を開放することができたため、使用料及び手数料も増加した。			◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。			

6 評価

(1) 所管評価
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆身近な地域でスポーツができる場を引き続き提供することにより、区民のスポーツ・レクリエーション活動を推進する。
◆学校施設開放の申請手続については、現在、紙の申請書・納付書を用いて行われていることから、利用者・学校・区のそれぞれの負担軽減および事務の効率化を図るため、施設予約システムを活用したオンラインによる申請および支払の導入を進めていく。
(2) 最終評価
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆所管評価に同意する。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	少年少女スポーツ普及事業				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	スポーツ推進費		事業	地域振興費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係
			少年少女スポーツ担当		

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画		実施計画事業	-
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	昭和52年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	スポーツ基本法、第3期スポーツ基本計画、スポーツ開放実施要綱、品川区青少年健全育成者(スポーツ)感謝状贈呈要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆少年少女スポーツ大会 少年少女各種スポーツ大会を実施し、仲間づくりを通じて肉体的・精神的な健全育成を図る。
◆少年少女スポーツ開放 スポーツ活動の場として、学校校庭・地域広場等を開放する。
◆青少年健全育成表彰 少年野球、少年少女サッカー、小学生バレーボール、ミニバスケットボール等の青少年のスポーツ活動において、育成者を表彰することにより青少年の健全育成に携わる指導者層の拡大につなげる。
◆ジュニアスポーツ拡大・定着プロジェクト 子どものスポーツに親しむ習慣や意欲を養うことで、積極的にスポーツをする子どもとしない子どもの二極化を解消し、体力の向上を図るとともに、ジュニアスポーツの裾野の拡大とスポーツ習慣の定着を図る。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
少年少女スポーツ大会参加者数	人	目標	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	少年少女スポーツ大会の参加者数
		実績	0	2,183	3,801		令和11年度	
少年少女スポーツ開放利用者数	人	目標	30,000	40,000	45,000	45,000	50,000	少年少女スポーツ開放(荏原平塚学園・品川学園・ひらさん広場)の利用者数
		実績	18,470	34,704	40,061		令和11年度	
品川区青少年健全育成者感謝状贈呈者数	人	目標	50	50	50	50	50	品川区青少年健全育成者感謝状贈呈者数(特別表彰・普通表彰含む)
		実績	16	30	15		令和11年度	
親子でジュニアスポーツフェスタ参加者数	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,500	親子でジュニアスポーツフェスタの参加者数
		実績	0	0	1,808		令和11年度	

取組内容・実績
◆各少年少女スポーツ団体等と共催し、4種目8大会を実施し、参加者は3,801人であった。
◆少年少女スポーツ団体の活動の場として、品川学園・荏原平塚学園・ひらさん広場等の施設開放を実施し、新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、利用者数は令和2年度以降増加傾向にある。
◆品川区青少年健全育成者(スポーツ)感謝状贈呈式を2月に実施し、15人に感謝状を贈呈した。
◆初開催となる親子でジュニアスポーツフェスタを総合体育館で実施し、1,808人の参加があった。地域のスポーツ団体に協力を依頼し、スポーツ体験だけではなく、地域のクラブ紹介なども実施し、継続したスポーツ環境の提供ができる仕組みとした。

指標の達成状況

◆令和2年度の少年少女スポーツ大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、すべての大会が中止となったが、令和3年度より大会を再開することができ、令和4年度の大会参加者数は、令和元年度以前と同等程度まで戻ってきている。
◆少年少女スポーツ開放は、複数チームでの交流試合などで利用することが増えたことにより、令和4年度の利用者数は、令和2年度と比較して2倍以上となっている。
◆親子でジュニアスポーツフェスタについては、令和元年度より予算化していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和4年度に初めての開催となったが、広く区民に周知したこともあり、目標に近い参加者数となった。

必要性・有効性

◆子どもの頃からスポーツに親しむことは、体の基礎や体力・運動能力を身に付け、他者との協調性や自信などを育み、大人になってからもスポーツを楽しみたいと思う気持ちを醸成することにつながるため、少年少女スポーツの普及の必要性・有効性は高い。
---

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	2,941	2,854	0	87	97.03%
役務費	72	26	0	46	35.70%
委託料	8,171	8,170	0	1	99.98%
使用料及び賃借料	96	78	0	18	81.25%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	3,159	3,158	0	1	99.97%
その他	1,948	1,842	0	106	94.58%
計	16,387	16,127	0	260	98.42%

決算額の主な内訳

- ◆委託料 8,170千円(親子でジュニアスポーツフェスタ運営委託他)
- ◆負担金補助及び交付金 3,158千円(全国大会出場助成金他)

効率性

- ◆新型コロナウイルス感染症による事業の中止がなくなり、予算全体の約40%を占めている親子でジュニアスポーツフェスタを実施できたことで、全体の執行率は98.4%と高くなっている。
- ◆親子でジュニアスポーツフェスタについて、簡易型プロポーザル方式の導入など委託事業者の選定方法を検討し、効率的・効果的な事業運営およびコスト削減を図る。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	6,467	9,106	2,639
物件費	3,347	11,132	7,785
うち委託料	1,448	8,170	6,722
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	2,945	4,996	2,051
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	1,386	544	-842
その他	0	0	0
小計 D	14,145	25,778	11,633
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-14,145	-25,778	-11,633
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-14,145	-25,778	-11,633
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	301	301
特別収支差額 M=L-K	0	301	301
当期収支差額 N=J+M	-14,145	-25,477	-11,332
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度:55.5% 令和4年度:37.4% ◆令和3年度まで新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていた、親子でジュニアスポーツフェスタを開催できたことで、物件費(委託料)の支出が大幅に増加し、行政費用に占める物件費の割合が40%超となった。		

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 Q	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	0	0	0
流動負債 R	358	544	186
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	358	544	186
その他	0	0	0
固定負債 S	3,377	5,029	1,652
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	3,377	5,029	1,652
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	3,735	5,573	1,838
正味財産の部	-3,735	-5,573	-1,838
正味財産の部合計 U	-3,735	-5,573	-1,838
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0
特微的事項	◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。		

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆少年少女スポーツ大会および少年少女スポーツ開放については、日頃のスポーツ活動の機会や成果発表の場として継続していく。
◆ジュニアスポーツ拡大・定着プロジェクトについては、幅広い年齢層の子どもが多様な種目を体験できるようメニューの見直しおよび拡充を図る。

(2) 最終評価

【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆所管評価に同意する。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	オリンピック・パラリンピックススポーツ等振興事業				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	スポーツ推進費		事業	地域振興費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課	担当係	スポーツ振興担当

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツによるまちの活性化を推進する
総合実施計画	P32	実施計画事業	オリンピック・パラリンピックを契機とする文化スポーツ活動の推進
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	平成25年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	スポーツ基本法、第3期スポーツ基本計画		

2 事業の目的・概要

【目的】	◆東京2020大会のレガシーに係る事業、その他のスポーツ振興を通じた地域活性化を図る。
【概要】	◆ホッケー教室・大会、観戦ツアーの実施 区応援競技であるホッケーの普及啓発を図る。区応援3競技を中心に、様々な競技の試合観戦・競技体験を行うツアーを実施する。 ◆しながわホッケーファンゾーンの実施 大井ホッケー競技場で開催されるホッケー国際親善試合の日程に合わせ、大井競馬場にて賑わいイベント等を実施する。 ◆ブラインドサッカー体験・国内大会の実施 区応援競技であるブラインドサッカーの普及啓発およびパラスポーツへの理解促進を図る。 ◆旧東品川清掃作業所暫定活用 旧東品川清掃作業所を文化・スポーツを起点としたまちの賑わいを創出する場として暫定活用する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
ホッケー教室参加者数	人	目標	480	220	360	360	360	ホッケー教室の参加者延べ人数
		実績	202	217	338		令和11年度	
しながわホッケーファンゾーン参加者数	人	目標		6,000	4,000	5,000	10,000	大井競馬場で実施したホッケーファンゾーンの参加者数 ※令和3年度は動画配信視聴回数
		実績		9,000	5,000		令和11年度	
ブラインドサッカー国内大会実施回数	回	目標	1	1	2	2	2	ブラインドサッカー国内大会の実施回数 ※令和2・3年度は無観客開催
		実績	1	1	2		令和11年度	
旧東品川清掃作業所利用件数	件	目標			450	1,300	1,800	旧東品川清掃作業所(アイルしながわ)の利用件数
		実績			394		令和8年度	

【取組内容・実績】	◆ホッケー教室では「ウォーターホッケー」等、都度内容を変更して取り組み、全ての回で定員を大きく上回る申込みがあった。 ◆しながわホッケーファンゾーンでは、地域団体や地元企業を巻き込むことで、地域が一体となって区応援競技であるホッケーを盛り上げ、2日間で約5,000人の来場があった。また、日本代表選手による商店街訪問や区を拠点とするチームへの支援など、年間を通じ地域に根差したホッケーの普及活動を行った。 ◆区応援競技であるブラインドサッカーの国内大会では、例年開催している地域リーグに加え、競技性・興行性を重視したトップリーグ(新設大会)を開催し、より一層のパラスポーツの周知・啓発と障害者理解の促進に努めた。 ◆旧東品川清掃作業所(アイルしながわ)の暫定活用を行うに当たり、施設の用途変更を含め、文化・スポーツを起点としたまちのにぎわいを創出する施設に改修し、パラスポーツ団体をはじめ、地域の賑わいイベントの場として活用した。
-----------	--

【指標の達成状況】	◆新型コロナウイルス感染症による影響が少なくなった背景もあり、実施したホッケー教室には、定員120人に対して1,000人を超える申込もあったことから、対面イベントの需要が高いことが読み取れた。 ◆しながわホッケーファンゾーンについては、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により動画配信のみとなったが、令和4年度は大井ホッケー競技場での国際親善試合に合わせて開催し、2日間で約5,000人を集め、ホッケー競技の認知度向上に寄与した。 ◆ブラインドサッカー国内大会については、令和4年度よりトップリーグを誘致したことで、年間2大会(地域リーグおよびトップリーグ)の開催を実現し、有観客で実施することで、パラスポーツの周知・啓発に効果があった。 ◆旧東品川清掃作業所(アイルしながわ)は令和4年10月に開設したが、当初は施設の認知度が低く、周知も十分ではなかったため、施設の利用件数は目標数値を下回った。
-----------	--

【必要性・有効性】	◆大井ホッケー競技場を有効活用する事業を展開することで、ホッケーの普及・啓発と「する」スポーツの観点から有効性は高い。 ◆しながわホッケーファンゾーンでは、年間を通してホッケーに親しめる場を提供し、ホッケーの認知度向上に寄与するとともに、地域の賑わいが図れたことから一定の効果はあったが、単発イベントとしての印象が強く、事業の継続的な効果測定が難しかったため、実施方法の見直しが必要である。 ◆東京2020大会を契機にパラスポーツへの関心が高まっており、ブラインドサッカー国内大会は「みる」スポーツの機会の創出とパラスポーツの認知度向上の観点から事業の有効性は高い。 ◆旧東品川清掃作業所(アイルしながわ)はパラスポーツ団体をはじめとした文化・スポーツ団体の活動機会創出の場として利用されている。また地域の賑わいに資する利用もあり、地域活性化の観点からも施設を運営する有効性は高い。
-----------	--

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	4,596	4,596	0	0	100.00%
役務費	184	184	0	0	100.00%
委託料	194,959	194,166	0	793	99.59%
使用料及び賃借料	667	667	0	0	100.00%
工事請負費	19,360	19,360	0	0	100.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	40,320	40,320	0	0	100.00%
その他	113	95	0	18	84.16%
計	260,198	259,387	0	811	99.69%

【決算額の主な内訳】	◆委託料 194,166千円(旧東品川清掃作業所(アイルしながわ)暫定活用、文化スポーツイベントボランティア「しな助」事務局運営業務委託他) ◆負担金補助及び交付金 40,320千円(しながわホッケーファンゾーン負担金、ブラインドサッカートップリーグ負担金)
------------	--

【効率性】	◆新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、旧東品川清掃作業所(アイルしながわ)暫定活用、しながわホッケーファンゾーン、ブラインドサッカートップリーグなどの事業を実施できたため、予算全体の執行率が高くなっている。
-------	---

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A	勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	0	29,740	29,740	流動資産 0	0	0	0
物件費	0	58,176	58,176	収入未済	0	0	0
うち委託料	0	52,665	52,665	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	0	165	165	その他	0	0	0
扶助費	0	0	0	固定資産 P	0	3,673,523	3,673,523
補助費等	0	40,350	40,350	土地	0	3,098,086	3,098,086
減価償却費	0	0	0	建物	0	470,091	470,091
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	0	105,346	105,346
賞与退職引当金繰入額	0	1,844	1,844	重要物品	0	0	0
その他	0	160,696	160,696	インフラ資産	0	0	0
小計 D	0	290,971	290,971	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	0	3,673,523	3,673,523
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	0	1,844	1,844
都支出金	0	4,000	4,000	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	賞与引当金	0	1,844	1,844
その他	0	1,720	1,720	その他	0	0	0
小計 E	0	5,720	5,720	固定負債 S	0	16,459	16,459
行政収支差額 H=E-D	0	-285,251	-285,251	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	0	16,459	16,459
通常収支差額 J=H+I	0	-285,251	-285,251	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0	負債の部合計 T=R+S	0	18,303	18,303
特別収入 小計 L	0	984	984	正味財産の部	0	3,655,220	3,655,220
特別収支差額 M=L-K	0	984	984	正味財産の部 合計 U	0	3,655,220	3,655,220
当期収支差額 N=J+M	0	-284,267	-284,267	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	3,673,523	3,673,523
特微的事項	◆人件費比率 令和4年度: 10.9% ◆令和4年度は東京2020大会開催に伴う経費が皆減したため、物件費(委託料)および補助費等の支出が令和3年度比で大幅に減少した。			特微的事項	◆固定資産には、令和4年10月に開設した旧東品川清掃作業所(アイルしながわ)の土地、建物等が新たに計上されている。		

6 評価

【(1)所管評価】	【評価結果】 ◆C 改善・見直しする事業 【説明】 ◆東京2020大会のレガシーとして幅広く事業展開を行ってきたが、各事業を再度精査し、実施方法などについて改善・見直しを検討する。
【(2)最終評価】	【評価結果】 ◆C 改善・見直しする事業 【説明】 ◆オリンピック・パラリンピックのレガシーについて、これまで打ち出してきた事業の効果および成果を検証し、区として真に継承すべき事業の洗い出しを行う。



令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	野外活動事業				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	スポーツ推進費		事業	地域振興費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係
			スポーツ振興担当		

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画		実施計画事業	-
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	昭和54年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	スポーツ基本法、みなとが丘ふ頭公園品川区キャンプ場利用要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要	
【目的】	
◆キャンプ場運営 青少年健全育成の一環として野外活動やキャンプ活動を行う目的で設置したキャンプ場を円滑に運営するため、施設管理業務を行う。	
◆野外活動事業 区民が野外活動を通じて自然に接し、親しむことができるよう、初心者向けおよびファミリー向けのキャンプ教室を実施する。	

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
みなとが丘ふ頭公園品川区キャンプ場利用者数	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	みなとが丘ふ頭公園品川区キャンプ場の利用者数
		実績	1,185	468	1,238		令和11年度	
品川キャンピングベース参加組数	組	目標			56	112	112	品川キャンピングベースの参加組数(1組5名まで)
		実績			46		令和11年度	
		目標						
		実績						

**取組内容・実績**  
 ◆青少年育成団体が安全に活動できるよう施設の維持管理を行うとともに、週1回の清掃・巡回等の業務を行い、年間1,238人の利用があった。  
 ◆みなとが丘ふ頭公園品川区キャンプ場を夏季休業期間中(7月末~8月上旬)に開放し、初心者が気軽にキャンプを体験できるよう品川キャンピングベース(初心者ファミリーキャンプ教室)を実施した。500組1,900人を超える応募があり、キャンプ需要の高さを伺える結果となったが、新型コロナウイルス感染症の影響によるキャンセルも多く見受けられた。

**指標の達成状況**  
 ◆みなとが丘ふ頭公園品川区キャンプ場利用者数について、令和2・3年度の利用者数を超えたが、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度以前の利用者数には、戻りきれていない。  
 ◆令和3年度まで実施していた初心者キャンプ教室(日帰り)を廃止し、令和4年度よりキャンプ初心者のファミリーを主な対象とした品川キャンピングベース(1泊2日)を実施し、これまで実施していた初心者キャンプ教室と比べて3倍以上の参加者が集まった。

**必要性・有効性**  
 ◆野外活動事業は、自然体験や非日常での体験を通じて、子どもたちの体力向上や自己肯定感を高めることに有効である。また、青少年の健全育成を目的とした開放事業以外に、全世代を対象とした一般開放事業を展開することで、幅広い世代の区民が自然体験をすることにつながるため、野外活動事業の推進は必要である。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	380	130	0	250	34.19%
役員費	0	0	0	0	0.00%
委託料	3,687	3,317	0	370	89.97%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.00%
工事請負費	500	499	0	1	99.88%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	10	0	0	10	0.00%
計	4,577	3,947	0	630	86.21%

**決算額の主な内訳**  
 ◆委託料 3,317千円(キャンプ場清掃業務委託、野外活動事業運営委託)  
 ◆工事請負費 499千円(キャンプ場照明器具LED化工事)

**効率性**  
 ◆ひだまりの里キャンプ場(山北町)を会場として実施を予定していたファミリーキャンプ教室が台風の影響により中止となったことおよびキャンプ場の修繕等が発生しなかったことから、一部執行率が低くなっているが、全体の執行率は86%超と高く、ほとんど見込みどおり執行している。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A	勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	1,617	1,657	40	流動資産 0	0	0	0
物件費	1,498	3,447	1,949	収入未済	0	0	0
うち委託料	1,439	3,317	1,878	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	0	0	0	その他	0	0	0
扶助費	0	0	0	固定資産 P	4,155	3,923	-232
補助費等	0	0	0	土地	0	0	0
減価償却費	231	231	0	建物	2,679	2,532	-147
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	1,476	1,391	-85
賞与退職引当金繰入額	347	97	-250	重要物品	0	0	0
その他	0	499	499	インフラ資産	0	0	0
小計 D	3,693	5,931	2,238	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	4,155	3,923	-232
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	89	97	8
都支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	賞与引当金	89	97	8
その他	0	0	0	その他	0	0	0
小計 E	0	0	0	固定負債 S	844	914	70
行政収支差額 H=E-D	-3,693	-5,931	-2,238	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	844	914	70
通常収支差額 J=H+I	-3,693	-5,931	-2,238	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0	負債の部合計 T=R+S	933	1,011	78
特別収入 小計 L	0	55	55	正味財産の部	3,222	2,912	-310
特別収支差額 M=L-K	0	55	55	正味財産の部 合計 U	3,222	2,912	-310
当期収支差額 N=J+M	-3,693	-5,876	-2,183	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	4,155	3,923	-232
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度:53.2% 令和4年度:29.6% ◆令和4年度は初心者キャンプ教室の内容を見直し、キャンプ初心者を対象にみなとが丘ふ頭公園品川区キャンプ場を開放する「品川キャンピングベース」を新たに実施したことで、物件費(委託料)の支出が令和3年度と比較し2倍以上に増加した。			◆固定資産には、みなとが丘ふ頭公園品川区キャンプ場の建物、工作物が計上されている。			

6 評価

<b>(1) 所管評価</b>
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆キャンプ場の維持管理を適切に行うことにより、貴重な自然体験の場として開放するとともに、キャンプ需要の高まりを受け、幅広い世代の参加者が楽しめるよう事業内容の見直しおよび実施方法の工夫を図る。
<b>(2) 最終評価</b>
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆引き続き事業内容およびスキームの見直しに努める。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	区民スポーツ大会				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	スポーツ推進費		事業	地域振興費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係
			地域スポーツ推進係		

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画		実施計画事業	-
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	昭和26年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	スポーツ基本法、第3期スポーツ基本計画		

2 事業の目的・概要

【目的】	◆区民のスポーツの祭典として、日頃スポーツに親しむ区民がその成果を発揮するとともに、参加者間の親睦を図り、区民スポーツの振興を図る。 ◆「水と緑の市町村との交流事業」の一環として、山北町においてスポーツを通じての交流・親睦を図るとともに、スポーツの普及とレベルアップを図る。
【概要】	◆(公財)品川区スポーツ協会と共催し、品川区民スポーツ大会を年4季(春季・夏季・秋季・冬季)開催する。 ◆品川区民スポーツ大会マラソン大会(以下「区民マラソン大会」という。)等の入賞者(10名程度)を山北町主催の丹沢湖ハーフマラソン大会に派遣する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
品川区民スポーツ大会参加者数	人	目標	12,500	12,500	12,500	12,500	13,000	品川区民スポーツ大会の参加者延べ人数
		実績	23	5,371	9,975		令和11年度	
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

【取組内容・実績】	◆新型コロナウイルス感染症による施設の利用制限等がなくなり、令和2・3年度において開催を中止していたほとんどの大会について、感染症対策を行ったうえで再開し、当初予定していた53種目中47種目の大会を実施することができた(令和3年度は25種目実施)。
-----------	--

【指標の達成状況】	◆令和4年度は、品川区民スポーツ大会の実施種目数が増加したことに伴い、参加者数も令和3年度と比べると参加者数も4,000人以上増加しているが、参加控え等もあり、令和元年度以前の数値には戻りきっていない状況である。
-----------	--

【必要性・有効性】	◆品川区民スポーツ大会は年間50種目以上の大会を開催しており、日頃からスポーツ活動を行っている区民がその成果を発揮できる場として重要な役割がある。 ◆品川区民スポーツ大会を開催することで、生涯を通じてスポーツ活動に参加できる機会の充実を図り、区民の健康づくりや生きがいづくりへの効果も期待できる。
-----------	---

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	0	0	0	0	0.00%
役務費	0	0	0	0	0.00%
委託料	87	0	0	87	0.00%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.00%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	22,960	21,727	0	1,233	94.63%
その他	0	0	0	0	0.00%
計	23,047	21,727	0	1,320	94.27%

【決算額の主な内訳】  
◆負担金補助及び交付金 21,727千円(品川区民スポーツ大会分担当)

効率性

◆新型コロナウイルス感染症の影響による大会の中止がほとんどなくなったため、各種大会を順調に実施することができ、執行率は令和3年度の58.52%から35.75ポイント上昇し、94.27%となった。  
◆実施大会数は令和元年度以前と比べると同等程度まで戻ってきているが、大会参加人数は、平成30年度と比べると2,000人以上減少しているため、募集方法などを見直していく必要がある。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A	勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	3,234	4,143	909	流動資産 0	0	0	0
物件費	0	0	0	収入未済	0	0	0
うち委託料	0	0	0	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	0	0	0	その他	0	0	0
扶助費	0	0	0	固定資産 P	0	0	0
補助費等	13,258	21,727	8,469	土地	0	0	0
減価償却費	0	0	0	建物	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	693	244	-449	重要物品	0	0	0
その他	0	0	0	インフラ資産	0	0	0
小計 D	17,185	26,114	8,929	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	179	244	65
都支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	賞与引当金	179	244	65
その他	0	0	0	その他	0	0	0
小計 E	0	0	0	固定負債 S	1,688	2,286	598
行政収支差額 H=E-D	-17,185	-26,114	-8,929	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	1,688	2,286	598
通常収支差額 J=H+I	-17,185	-26,114	-8,929	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0	負債の部合計 T=R+S	1,867	2,530	663
特別収入 小計 L	0	137	137	正味財産の部	-1,867	-2,530	-663
特別収支差額 M=L-K	0	137	137	正味財産の部合計 U	-1,867	-2,530	-663
当期収支差額 N=J+M	-17,185	-25,977	-8,792	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0
特徴的事項	◆人件費比率 令和3年度:22.9% 令和4年度:16.8% ◆令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、約半数の大会が中止となったが、令和4年度については、ほとんどの大会を開催することができたため、補助費等の支出が大幅に増加した。			◆流動・固定負債には、翌年度以降支出が見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。			

6 評価

【(1)所管評価】	【評価結果】 ◆B 継続する事業 【説明】 ◆区民のスポーツの祭典としての大会を開催し、日頃からスポーツ活動を行っている区民がその成果を発揮できる場づくりを今後も継続することで、生涯をとらしてスポーツに親しめる機会の充実を図る。
【(2)最終評価】	【評価結果】 ◆C 改善・見直しする事業 【説明】 ◆品川区民スポーツ大会の参加者数について、コロナ禍以前の水準に戻るよう事業周知に創意工夫を図る。 ◆協賛金の導入などについて検討する必要がある。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	品川区スポーツ協会助成金				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	スポーツ推進費		事業	品川区スポーツ協会助成金
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係
					地域スポーツ推進係

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツによるまちの活性化を推進する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成7年度～	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	公益財団法人品川区スポーツ協会に対する助成に関する条例		

2 事業の目的・概要

目的・概要	
【目的】	◆公益財団法人品川区スポーツ協会の健全な運営と発展を図るため、同協会に対し必要な助成を行い、もって区のスポーツ振興に資する。
【概要】	◆事務局運営費に対する助成 ①事務局人件費 ②事務局維持費 ③各連盟助成費 ④ホームページ維持費 ⑤広報事業費 ⑥研修事業費

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
各種スポーツ教室および大会の回数	回	目標	146	149	166	157	170	体育、スポーツおよびレクリエーションの各種教室ならびに大会の開催回数
		実績	49	79	163		令和11年度	
加盟団体への助成件数	団体	目標	29	29	29	29	29	スポーツ振興のため活動するスポーツ協会の加盟団体への助成件数
		実績	26	22	25		令和11年度	
広報誌等の発行回数	回	目標	5	5	5	5	5	スポーティフルライフ(機関紙)および事業のお知らせ(各連盟年間事業計画書)の発行回数
		実績	4	5	5		令和11年度	
功労者表彰受賞者数	人	目標	3	3	3	3	3	品川区スポーツ協会功労賞の表彰を受けた人数
		実績	3	3	3		令和11年度	

**取組内容・実績**  
 ◆令和4年度の体育、スポーツおよびレクリエーションの各種教室、大会の開催事業では、教室・講座を158回、大会を5回開催し、スポーツおよびレクリエーションの普及、振興を図り、誰もが気軽にスポーツに親しめる機会を提供した。  
 ◆スポーツ協会の加盟団体への助成事業では、加盟29団体中25団体にスポーツ振興のための活動資金として899,000円を助成した。

指標の達成状況

◆各種教室、大会の開催事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2・3年度と比べて大幅に実施回数が増え、感染症対策を講じながら、誰もが気軽にスポーツに親しみ、楽しめる環境を提供した。  
 ◆加盟団体は29団体となり、各団体の活動を通じて、専門性が高く柔軟な執行体制を活かした多様なプログラムサービスを提供した。  
 ◆加盟団体の29団体のうち、助成対象となる事業を実施していない団体には助成を行っていないため、助成団体は25団体となった。

必要性・有効性

◆子どもから高齢者までの区民のライフステージに応じた各種教室や大会を通じて、スポーツに参加する機会と参加者同士が交流する場を提供しており、区民スポーツの推進に大きく寄与している。  
 ◆加盟団体への助成事業を通じて、各団体が広く区民を対象としたスポーツ事業を企画・運営することにより、区民による区民のための事業運営が展開されており、生涯スポーツ・レクリエーションの振興を図る上でも重要な役割を担っている。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	0	0	0	0	0.00%
役員費	0	0	0	0	0.00%
委託料	0	0	0	0	0.00%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.00%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	77,679	53,321	0	24,358	68.64%
その他	0	0	0	0	0.00%
計	77,679	53,321	0	24,358	68.64%

決算額の主な内訳

◆負担金補助及び交付金 53,321千円(公益財団法人品川区スポーツ協会助成金)

効率性

◆執行率が68.64%と低くなっているが、スポーツ協会の事務局次長に区管理職が派遣され、給与等の支払が発生しなかったことなどにより、人件費に大幅な不用額が発生したことによる。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	12,126	12,428	302
物件費	0	0	0
うち委託料	0	0	0
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	65,593	53,321	-12,272
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	2,599	731	-1,868
その他	0	0	0
小計 D	80,318	66,480	-13,838
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-80,318	-66,480	13,838
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-80,318	-66,480	13,838
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	410	410
特別収支差額 M=L-K	0	410	410
当期収支差額 N=J+M	-80,318	-66,070	14,248

◆人件費比率 令和3年度:18.3% 令和4年度:19.8%  
 ◆人件費に大幅な不用額が発生したことなどの影響により、補助費等の支出が減少した。

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	300,000	300,000	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	300,000	300,000	0
資産の部合計 Q=0+P	300,000	300,000	0
流動負債 R	671	731	60
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	671	731	60
その他	0	0	0
固定負債 S	6,332	6,858	526
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	6,332	6,858	526
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	7,003	7,589	586
正味財産の部	292,997	292,411	-586
正味財産の部合計 U	292,997	292,411	-586
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	300,000	300,000	0

◆固定資産には、スポーツ協会への出捐金が計上されている。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果】  
 ◆B 継続する事業  
 【説明】  
 ◆身近な地域で区民のライフステージに応じたスポーツに参加する機会・場を提供することにより、区民スポーツの推進を図るとともに、加盟団体への助成事業を通じて、区民による区民のための事業運営を展開し、生涯スポーツ・レクリエーションの振興を図る。

(2) 最終評価

【評価結果】  
 ◆B 継続する事業  
 【説明】  
 ◆所管評価に同意する。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	体育館運営経費				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	スポーツ推進費		事業	地域振興費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課	担当係	地域スポーツ推進係

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	昭和34年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	品川区立体育館条例、品川区立体育館条例施行規則		

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆区立体育館の適切な管理運営を行うとともに、区民の健康や体力の維持増進を目的に体育館利用の促進を図る。
【概要】
◆総合体育館・戸越体育館の施設の維持管理
◆各種スポーツ教室の開催など体育、スポーツおよびレクリエーションに係る事業の運営
◆区民への施設の貸出業務・利用料金の徴収
◆区民スポーツ大会への会場提供などを通じた区民のスポーツ・レクリエーションの振興
※平成18年度より、(公財)品川区スポーツ協会を指定管理者として管理運営を委託

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
体育館の利用件数	件	目標	5,000	5,000	5,000	5,000	6,000	総合体育館および戸越体育館の時間区分別の各施設の貸切利用件数
		実績	4,162	3,433	4,935		令和11年度	
各種スポーツ教室の参加人数	人	目標	7,200	6,000	7,200	7,200	8,000	少年少女教室、初心者教室、高齢者(シルバー)教室、障害者教室およびスポーツ講習会における参加延べ人数
		実績	626	1,929	6,704		令和11年度	
フリー利用の参加人数	人	目標	52,000	45,100	52,000	52,000	6,000	総合体育館9種目および戸越体育館12種目のフリー利用における参加延べ人数
		実績	13,649	27,499	37,526		令和11年度	
スポーツの日記念事業の参加人数	人	目標	800	800	800	800	1,200	スポーツの日記念事業における参加延べ人数
		実績	74	0	1,062		令和11年度	

取組内容・実績
◆総合体育館は区の総合的なスポーツ施設として、一般貸出とともに多様なスポーツ教室や種目別フリー利用等を実施し、子どもから高齢者まで誰もが活用できる施設として運営し、戸越体育館は地域の身近なスポーツ施設として区民に親しまれるよう運営している。
◆各種スポーツ教室では、バウンドテニスや卓球などの初心者教室や、60歳以上の高齢者を対象としたシルバーピンポン教室等を開催し、幅広い区民ニーズを捉えたスポーツの場を提供している。
◆フリー利用では、曜日・時間帯別に総合体育館9種目、戸越体育館12種目を実施し、個人でも気軽に好きなスポーツを楽しめる場を提供している。
◆スポーツの日記念事業では、区立体育館を無料開放し、誰もが気軽にスポーツを始めるきっかけとなることを目的に様々なスポーツ体験会を実施している。令和4年度は、東京2020大会のレガシーとして「オリンピック大山加奈に学ぶバレーボール教室」を開催した。
指標の達成状況
◆令和2・3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、体育館の利用人数や事業の参加人数が大幅に減少したが、令和4年度は感染症対策を実施しながら体育館の貸出および各種事業を継続することで、事業の中止もほとんどなく、全ての指標において実績が大幅に増加した。
◆スポーツの日記念事業を3年ぶりに令和元年度以前の規模に戻して開催し、延べ1,062人の参加者にスポーツを楽しむ機会を提供した。

必要性・有効性

◆身近な地域で気軽にスポーツをする機会・場を提供しており、区民スポーツの推進に大きく寄与している。
◆令和3年度からは、品川区をホームタウンとするプロスポーツチーム(フットサル・バスケットボール)が区立体育館をホームアリーナとして公式戦を開催しており、「する」スポーツだけでなく、「みる」スポーツの拠点としても必要性が高まっている。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	37,542	34,961	0	2,581	93.12%
役務費	83	83	0	0	99.40%
委託料	189,614	188,040	0	1,574	99.17%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.00%
工事請負費	65,196	65,196	0	0	100.00%
備品購入費	1,924	1,914	0	10	99.48%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	0	0	0	0	0.00%
計	294,359	290,194	0	4,165	98.59%

決算額の主な内訳
◆委託料 188,040千円(体育館管理運営事業委託他)
◆工事請負費 65,196千円(総合体育館照明器具LED化工事他)

効率性

◆新型コロナウイルス感染症による施設の利用制限等を行うことなく運営できたため、利用料金収入は、令和3年度と比べて1.5倍超となり、令和元年度以前の水準に戻ってきており、指定管理運営委託料の抑制につながった。
---

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A	勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	12,126	11,600	-526	流動資産 0	0	0	0
物件費	220,241	208,871	-11,370	収入未済	0	0	0
うち委託料	189,758	173,476	-16,282	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	0	1,562	1,562	その他	0	0	0
扶助費	0	0	0	固定資産 P	2,858,693	2,853,999	-4,694
補助費等	0	0	0	土地	1,164,279	1,164,279	0
減価償却費	60,020	60,017	-3	建物	1,690,720	1,682,305	-8,415
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	3,120	2,905	-215
賞与退職引当金繰入額	2,599	682	-1,917	重要物品	574	4,510	3,936
その他	1,964	24,437	22,473	インフラ資産	0	0	0
小計 D	296,950	307,169	10,219	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	2,858,693	2,853,999	-4,694
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	671	682	11
都支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	賞与引当金	671	682	11
その他	241	321	80	その他	0	0	0
小計 E	241	321	80	固定負債 S	6,332	6,401	69
行政収支差額 H=E-D	-296,709	-306,848	-10,139	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	6,332	6,401	69
通常収支差額 J=H+I	-296,709	-306,848	-10,139	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0	負債の部合計 T=R+S	7,003	7,083	80
特別収入 小計 L	0	383	383	正味財産の部	2,851,690	2,846,916	-4,774
特別収支差額 M=L-K	0	383	383	正味財産の部 合計 U	2,851,690	2,846,916	-4,774
当期収支差額 N=J+M	-296,709	-306,465	-9,756	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	2,858,693	2,853,999	-4,694
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度:5.0% 令和4年度:4.0% ◆令和4年度に総合体育館および戸越体育館において、老朽化した設備等の改修工事を行ったため、その他(投資的経費)の支出が大きく増加した。			◆固定資産には、区立体育館の土地、建物等が計上されている。 特微的事項			

6 評価

(1) 所管評価
【評価結果】
◆B 継続する事業
【説明】
◆区立体育館の管理運営を適切に行うことにより、身近な地域で区民が気軽にスポーツができる環境を確保するとともに、各種スポーツ教室やフリー利用を通じて、様々なスポーツ活動の機会・場を提供し、区民のスポーツ・レクリエーションの振興を図る。
(2) 最終評価
【評価結果】
◆C 改善・見直しする事業
【説明】
◆区民スポーツの重要な活動拠点として、より効率的・効果的な管理運営を行うとともに、各種スポーツ団体のノウハウを活用した事業展開を図る。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	公園運動施設費				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	スポーツ推進費		事業	地域振興費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課	担当係	地域スポーツ推進係

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	-
		現況	-
		必要事業量	-
事業期間	平成13年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	品川区立公園条例、品川区立公園条例施行規則		

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆区民のスポーツ活動の拠点として、公園運動施設の整備・充実を図る。
【概要】
◆公園の有料運動施設等を区民のスポーツ活動の拠点として開放し、施設の利用促進を図る。
◆しながわ中央公園内でボルダリング場を運営し、子どもたちを中心に新たなスポーツを気軽に楽しめる機会を創出する。令和5年度はオリンピックをゲストとしたオープニング記念イベントを開催するほか、初心者教室を月1回程度実施し、競技の普及・啓発を図る。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
公園運動施設利用件数 (団体利用)	件	目標	37,930	39,025	33,100	36,053	40,000	野球場・庭球場・サッカー場等の団体利用件数
		実績	29,693	32,024	33,268		令和11年度	
公園運動施設利用件数 (個人利用)	件	目標	19,650	16,440	22,100	34,651	35,000	弓道場、スケートボード場、ボルダリング場、しながわ区民公園プールの個人利用件数
		実績	15,163	19,594	19,588		令和11年度	
ボルダリング初心者教室 実施回数	回	目標				12	12	初心者を対象にしたボルダリング教室の実施回数
		実績					令和11年度	
		目標						
		実績						

**取組内容・実績**  
 ◆公園運動施設を区民のスポーツ活動の場として、野球・テニス・サッカー等の利用団体および個人に対して開放し、予約管理等を行った。また、品川区民スポーツ大会など、区が主催する大会等の会場としても貸出を行い、区民のスポーツ活動の拠点となるよう、施設の利用促進を図った。  
 ◆ボルダリング場の新設に向けて、誰もが気軽に楽しめる施設となるよう運用方法について検討し、利用規定等の整備を行い、令和5年4月にしながわ中央公園内にボルダリング場をオープンした。  
 ◆令和5年8月に開設予定の子どもサッカー場の運用方法について検討し、条例・規則の改正および子どもサッカー場利用団体の登録制度の創設など、開設に向けた準備を整えた。

指標の達成状況

◆団体利用については、令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により施設の利用制限等を行ったことや利用控えなどもあり、目標と実績の件数の差が大きくなった。令和4年度については、通常どおり開放することができたが、しながわ区民公園等の改修工事が始まり、長期間開放を休止したため、利用件数は微増となった。  
 ◆個人利用については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、人と人の接触を避けて1人でできるスケートボード等の需要が増加し、令和3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響が残っていたものの、利用件数は目標件数を上回った。

必要性・有効性

◆品川区内で野球・テニス・サッカー等、屋外でスポーツができる施設は限られており、区民からの需要も高く、区民がスポーツ活動を行う拠点としての必要性は高い。  
 ◆ボルダリングは、東京2020大会で初めて採用されたアーバンスポーツの1つであり、子どもたちを中心に新たなスポーツを気軽に楽しめる施設として開放することは、区民が様々なスポーツに親しむ機会・場を提供することにつながり、必要性・有効性が高い。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	1,307	738	0	569	56.45%
役務費	21	6	0	15	30.73%
委託料	19,818	19,728	0	90	99.55%
使用料及び賃借料	2,242	803	0	1,439	35.81%
工事請負費	46,200	46,200	0	0	100.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	180	75	0	105	41.44%
計	69,768	67,550	0	2,218	96.82%

決算額の主な内訳

◆工事請負費 46,200千円(しながわ中央公園ボルダリング場設置工事)  
 ◆委託料 19,728千円(しながわ区民公園屋外水泳場管理運営委託他)

効率性

◆一部科目の執行率は低くなっているが、全体の執行率は96%超と高く、適正かつ効率的に執行している。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	16,168	10,771	-5,397
物件費	17,096	16,298	-798
うち委託料	15,399	14,751	-648
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	716	75	-641
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	3,466	633	-2,833
その他	0	51,177	51,177
小計 D	37,446	78,954	41,508
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	13,206	13,206
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	17,812	67,550	49,738
その他	0	16,000	16,000
小計 E	17,812	96,756	78,944
行政収支差額 H=E-D	-19,634	17,802	37,436
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-19,634	17,802	37,436
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	355	355
特別収支差額 M=L-K	0	355	355
当期収支差額 N=J+M	-19,634	18,157	37,791

◆人件費比率 令和3年度:52.4% 令和4年度:14.4%  
 ◆しながわ中央公園ボルダリング場の設置工事を行ったため、行政費用におけるその他(投資的経費)の割合が高くなっている。

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
流動資産 0	119	0	-119
収入未済	119	0	-119
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	119	0	-119
流動負債 R	895	633	-262
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	895	633	-262
その他	0	0	0
固定負債 S	8,442	5,943	-2,499
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	8,442	5,943	-2,499
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	9,337	6,576	-2,761
正味財産の部	-9,218	-6,576	2,642
正味財産の部 合計 U	-9,218	-6,576	2,642
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	119	0	-119

◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果】  
 ◆B 継続する事業  
 【説明】  
 ◆公園運動施設の利用率は、庭球場では約95%と非常に高く、全体でも約72%となっており、区民のスポーツ活動の拠点として重要な役割を果たしている。今後も、子どもサッカー場の新設など更なる利用拡大を図り、身近なスポーツ活動の場として開放していく。  
 ◆ボルダリング場は、オープニング記念イベントや初心者教室の開催を通じて、施設の利用促進および競技の普及・啓発を図る。

(2) 最終評価

【評価結果】  
 ◆B 継続する事業  
 【説明】  
 ◆所管評価に同意する。

令和4年度 行政評価シート (小事業評価)

小事業名	施設予約システム管理経費				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	スポーツ推進費		事業	施設予約システム管理経費
担当部署	文化スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係
			地域スポーツ推進係		

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成14年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	品川区施設予約システムの利用者登録に関する規則		

2 事業の目的・概要

【目的】	◆区施設の利用者の利便性向上を図るため、施設予約システムを運用する。
【概要】	◆施設予約システムを利用し、区施設の利用者管理・予約管理を行う。 ◆新規施設の追加に伴う、施設予約システムの改修業務を実施する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
品川区施設予約システムの利用施設数	施設	目標	55	55	55	58	58	スポーツ推進課にて管理・運営している施設における品川区施設予約システム利用施設数
		実績	55	55	55		令和11年度	
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

**取組内容・実績**  
 ◆施設予約システムを利用し、インターネットからの予約受付や抽選申込み等を行い、各施設における予約情報等の管理を行っている。  
 ◆令和5年度に新設する施設(しながわ区民公園こどもサッカー場ほか)の予約管理等を施設予約システムで行うため、システムの改修作業を実施した。

**指標の達成状況**  
 ◆施設予約システムを利用している55施設について、予約管理等業務を実施した。

**必要性・有効性**  
 ◆施設予約システムは、各施設の空き状況等を公開しているほか、団体登録をしている利用者はインターネットからの抽選申込み・空き予約ができるなど、利用者の利便性向上には必要不可欠なものである。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	100	0	0	100	0.00%
役務費	0	0	0	0	0.00%
委託料	3,168	2,904	0	264	91.67%
使用料及び賃借料	1,791	1,791	0	0	99.97%
工事請負費	0	0	0	0	0.00%
備品購入費	0	0	0	0	0.00%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.00%
その他	0	0	0	0	0.00%
計	5,059	4,695	0	364	92.80%

**決算額の主な内訳**  
 ◆委託料 2,904千円(品川区施設予約システム施設追加作業等委託)  
 ◆使用料及び賃借料 1,791千円(品川区施設予約システムサービス利用契約)

**効率性**  
 ◆執行率は92.8%と高く、施設予約システムサービス利用料は、各所管で管理している施設数に応じて案分して支出しており、適正かつ効率的に執行している。  
 ◆需用費で発生している不用額は、施設予約システム用プリンタトナーカートリッジ等の消耗品購入経費であり、令和4年度については、消耗品が不足することがなかったため、執行率は0%となっている。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A	勘定科目	3年度(A)	4年度(B)	C=B-A
給与関係費	808	2,486	1,678	流動資産 0	0	0	0
物件費	1,874	4,695	2,821	収入未済	0	0	0
うち委託料	0	2,904	2,904	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	0	0	0	その他	0	0	0
扶助費	0	0	0	固定資産 P	0	0	0
補助費等	0	0	0	土地	0	0	0
減価償却費	0	0	0	建物	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	0	0	0
賞与退職引当金繰入額	173	146	-27	重要物品	0	0	0
その他	0	0	0	インフラ資産	0	0	0
小計 D	2,855	7,327	4,472	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	45	146	101
都支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	賞与引当金	45	146	101
その他	0	0	0	その他	0	0	0
小計 E	0	0	0	固定負債 S	422	1,372	950
行政収支差額 H=E-D	-2,855	-7,327	-4,472	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	422	1,372	950
通常収支差額 J=H+I	-2,855	-7,327	-4,472	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0	負債の部合計 T=R+S	467	1,518	1,051
特別収入 小計 L	0	82	82	正味財産の部	-467	-1,518	-1,051
特別収支差額 M=L-K	0	82	82	正味財産の部 合計 U	-467	-1,518	-1,051
当期収支差額 N=J+M	-2,855	-7,245	-4,390	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0
特微的事項	◆人件費比率 令和3年度:34.4% 令和4年度:35.9% ◆新規施設の予約管理等を施設予約システムで行うため、施設予約システムの改修業務を行い、物件費の支出が令和3年度比で2倍以上に増加した。			◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。			

6 評価

<b>(1) 所管評価</b>
【評価結果】 ◆B 継続する事業
【説明】 ◆施設予約システムを利用することで、一元的に予約情報等の管理を行うことが可能となり、区施設を利用する区民等の利便性の向上も実現できる。また、DXを推進していく上でも施設予約システムの利用は必要不可欠である。
<b>(2) 最終評価</b>
【評価結果】 ◆B 継続する事業
【説明】 ◆所管評価に同意する。